

第1号議案

2021年度事業報告

I. 2021年度支部通常総会

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため2021年5月18日(火)書面審議及びzoomによるオンライン会議形式での開催となった。期限までに提出された審議回答を常任幹事会で集計し、各議案の審議結果を確認して、当日zoom出席者は投票により審議を行うこととした。支部規約第9条(支部正会員の10分の1)に基づき定足数の確認後、下記の議案の審議が行われ、原案通り承認した。

議案1. 2020年度事業報告承認の件

議案2. 2020年度収支決算承認の件

議案3. 支部規約改正の件

議案4. 支部役員及び支部監査選任の件

総会終了後の法人協力会員・正会員を交えた懇親会はオンラインでの交流会という形で開催した。

II. 役員会関連報告

1. 役員会・常任幹事会(幹事長:相坂研介)

全5回の役員会、全8回の常任幹事会とも、昨年より始めたリモート形式に、役員や幹事が随分慣れただけでなく、距離や時間の問題を解決し得るこの新しい環境を、コロナ以降も活用していく様々な下準備を整えた一年であった。

支部予算については、様々な事業の交通費が少なかった分、会員数自然減に備える先行投資として、オンライン機材の拡充やzoomウェビナー契約、事務局のリモート用PC補充等を承認。喫緊のコロナ禍でのウェビナー開催等はもちろん、長期的にも多様なJIA活動を発展・継続させられるための準備を行った。役員会のこうした審議以外の時間においては、オンラインで一層意見の出やすくなった委員長・地域サミットからの抽出課題や提案を議論し、両会議の相乗効果により提案の実現化を加速させた。次年度はこうした具体策を実行に移したい。

さらにその役員会を先導すべき常任幹事会では机上の議論にとどまらず、発注者支援広報準備、資格制度勉強会への参加、学生の会@joint設立や法人協力会員オンラインセミナーの支援など、各WGごと活動の実行、さらにはAAF建築学生ワークショップへのアドバイザー派遣や、知的生産者選定支援機構のバックアップなど関連他団体へも協力し、JIAのプレゼンスを発揮、流布する努力を続けている。

その一方、事前協議にSLACKを導入したり、開始時間を18:30に遅らせるなど、時代に即したツールを活用しつつ、タイムシフトで現役幹事の本業への負担も軽減し、支部運営の将来的な維持可能性を高める改革を幾つも行った。

JIAに今後も存在理由を求めるならば、行政、市民、建築家間の潤滑油であるべき職能団体としての本懐

を見失わないことが最重要である。「発注者支援」とは、発注者=行政の向こうの使用者=市民を支援することであり、さらにはその支援を業として受けられる知見を持つJIA会員自身の支援でもある。全地域会、委員会、会員がこの認識を分かち合い、組織が真に機能すべく、役員会・幹事会での訴えを続けたい。

2. 委員長、地域サミット合同会議(副支部長:南知之)

2018年度より地域サミットと委員長会議を合同で行い活発な意見交換をしてきました。今年も前年に続きコロナ禍により、初のオンライン開催となりました。グループによるワールドカフェ方式が好評だったので、今年もZOOMのブレイクアウトセッションを使って、集合形式の会議同様の活発なグループディスカッションができました。

オンライン開催によるディスカッションもみなさんが慣れてきて活発な討議がなされました。今後のオンラインによる会議の有効性を確認しつつ進められたと考えています。3回のテーマは以下の通りです。

第1回 委員長・地域サミット合同会議 2021/7/30
全体テーマ「これからのJIA活動、建築家の職能を考える」

第1部 5委員会からの昨年度活動報告

○環境委員会の取り組み

○広報委員会の取り組み

○学生デザイン委員会の取り組み

○建築まちづくり委員会の取り組み

○JIAトーク実行委員会の取り組み

第2部 グループディスカッション:下記テーマ

1) JIA活動を次世代につなぐ

2) 地域会と委員会の連携を探る

3) これからのJIAと建築家や建築家の役割

第3部 交流会に加え、法人協力会員、学生会員、新会員等による交流会を開き、意義ある交わりができた。

第2回 委員長・地域サミット合同会議 2021/11/25

1. コロナ禍で変化したJIAの情報発信

①JIAからの発信(オンライン機材を使った活用方法)

②最新機材を使つての配信の紹介(事例住宅部会)

③地域会独自の会場を使つたオンラインのハイブリッド方法を紹介

2. 2020年度開催「委員会懇談会」ヒヤリング内容の報告

3. 2021年「第一回委員会・地域会サミット」セッション内容の報告

4. グループセッション

テーマ「現状の課題と具体的な展開に向けて」

第3回委員長・地域サミット合同会議 2022/3/18

第1部 報告

1. オンライン機材勉強会報告

2. 三省合同通知と本部総務委員会知財WGについて

／関東甲信越支部における発注者支援の取り組みについて

3. 地域会活動報告

神奈川地域会／杉並地域会／長野地域会／茨城地域会／目黒地域会

第2部 ディスカッション

- 1) 地域会と行政の関係構築について
- 2) 地域会活動の現状と今後の展望

Ⅲ. 委員会活動報告

1. 総務委員会（委員長：鈴木弘樹）

2020年度の活動に大きく影響を及ぼした新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大は、今年度もすべての活動に対して大きく影響を及ぼし、オンライン形式の会議などは定着しつつも制限がある活動であった。以下活動内容を報告する。

■会員集会・新会員の集い・新春の集い

対面の会員集会・新会員の集い・新春の集いは、すべて新型コロナウイルス感染拡大により残念ながら中止となった。

■新会員の集いは、主に新会員と会員・新会員間の交流、JIAの活動の紹介とJIA建築家賠償責任保険（ケンバイ）の紹介の目的で実施しており、例年、全国大会は新会員に参加補助が出るため、全国大会前に他のイベントと共同開催で、年1回実施していた。しかし、新会員は毎月入会してきており、年1回の新会員の集いとのタイミングが合わない点、JIAの活動の紹介とJIA建築家賠償責任保険（ケンバイ）の紹介は、新会員だけではなく、会員向けにあってもよいこともあり、JIAの活動の紹介とJIA建築家賠償責任保険（ケンバイ）の紹介は、オンデマンド化を検討してきたが、今年度は試行的に総務委員会のメンバーに対してJIA建築家賠償責任保険（ケンバイ）の講習会を実施した。現在、編集中である。JIAの活動の紹介については、本部と支部の活動の役割分担など整理が必要なため、企画内容を調整中である。新会員の集い実施時期は、来年度に向け検討しているが、会員間及び法人協力会員との交流を活性化するため、新春の集いと共同開催を検討している。

■会員集会は、例年、新会員の集いと新春の集いの間で、他のイベントと絡めてテーマを決めて実施していたが、例年通りには実施できなかった。しかし、今年度は、告示第98号改正に向け、関東甲信越支部の企画で全国の会員も参加できる会員集会を2022年1月27日に開催した。企画の主旨は、以下の通りである。「本会員集会の企画は、現在行われている国土交通省告示第98号改正をテーマに行う。業務報酬基準はアンケート調査に基づき審議され改正される。このアンケート調査の主旨に沿って、正確にアンケートに答えることが、適正な業務報酬基準につながる。前回の告示改定を踏まえて国土交通省から課題と改正方針（案）が出ており、現在、検討委員会で協議されている。現

状の告示第98号では、戸建住宅の業務量は、アンケートから有意な結果が得られず、旧告示15号から見直しを行わなかったことや、中小規模建築で告示15号よりも業務量が下がった部分があるのは、適切にアンケートに答えなかったことが理由だという意見が出ている。今回の告示第98号改定に対して、現在協議されている課題と改定方針（案）の内容を知ること、業務量が適正に反映されるように正しくアンケートに答えるために、会員の理解を深めることを目的として「告示第98号改正に向けた課題と準備」と題して会員集会を行う。設計事務所にとって業務報酬基準は、事務所経営の根幹をなす重要な事項となりため、多くの会員の皆様のご参加を期待する。」

会員集会は、多くの会員の方に参加いただいた。その成果は、告示第98号改正のためのアンケート参加者を募ったところ多くの方々に登録いただいた。

■予算収支計画

昨年度から実施している委員会、地域会に対する事業計画案及び予算案の資料提出を今年度も実施し、予算の編成に活用した。作成いただいた皆様には、ご尽力いただき感謝申し上げます。予算案は、例年の懸案事項である会員減少による収入減（100万から150万円程度/年）を反映し、原則事業計画案及び予算案を反映したが、一部内容についてヒアリングを行い、一部事業計画案及び予算案を修正し計上した。例年の課題であるが、自然減や会員減による収入の減少がある。来年度の予算もそれを反映せざるを得ない状況で、抜本的対策は今後の課題である。活動基盤に直結する費用の削減は苦渋の選択であるが、関係各位においては、これまでの多様な活動の維持・発展にご尽力いただきたい。

■その他の委員会活動と関連した主な行事について

今年度の委員会の活動（毎月委員会開催）

- ・JIA入会審査
- ・規則などの改定検討
- ・関東甲信越支部の事務局の働き方改革（在宅勤務や仕事の効率化など）
- ・若手会員向けのベテラン会員相談室の活性化（Web形式の検討）
- ・JIA25年賞の支部推薦の選出
- ・委員会の委員公募 など

関連行事

・5月18日：2021年度JIA関東甲信越支部通常総会・交流会（WEB会議）

交流会では、法人協力会員と会員の交流を目的にグループに分かれ情報交換を行った。法人協力会員にとって、以前は総会後の懇親会で会員の方とのつながりを強化できる機会があったが、オンライン形式のためそれがかなわなかったため、総務委員会の企画でオンライン形式の交流会を実施した。多くの方から良い機会という意見が聞かれ、その後も1回実施した。

・7月30日：委員長・地域サミット合同会議（WEB会議）

・11月25日：委員長・地域サミット合同会議（WEB 会議）

・1月27日：役員会＋会員集会（WEB 会議）

会員集会テーマ「業務報酬基準（告示第98号）改正に向けた課題と準備－アンケートに適切に答えていただくために－」 17：00～18：30

・3月18日：地域サミット（WEB 会議）など

2. 広報委員会（委員長：市村宏文）

2021年度は、昨年度に引き続きコロナ禍での委員会開催となり、全てオンライン会議としました。オンラインでのやり取りが一般化して、Bulletinの取材も対面とオンラインが混在しました。昨年度から始めた常任幹事会・総務委員会と協力しての学生会員主体の活動の基盤作りは、春から「(仮) 学生会」としての活動が始まり、6月には近畿支部学生会との交流会も開催されました。秋には名称の「学生の会 @joint（ジョイント）」がきまり、役員会でも学生の会設立の承認を受け、毎月の定例会と交流会（近畿支部、九州支部と共催）をはじめ、具体的な活動がいろいろはまりました。

交流委員会から委員長、法人協力会員と広報部会員の参加があり、密に連携をとりながら、オンラインセミナーのメルマガ配信等の広報に協力をいたしました。今年度の主な活動をご報告いたします。

- ・ 毎月1回の委員会開催、Bulletin 編集ワーキング、HP ワーキングもそれぞれで月1回開催しています。現在は全委員が2つのワーキングに参加しています。
- ・ 会報誌 Bulletin の発刊。年間テーマとして、その特集を中心した紙面構成も2年を向かえ、今年度は全号編集長によるインタビュー、対談形式による構成として、特徴のある内容の濃い新しい紙面作りとなりました。
- ・ 支部サイト運用。毎月の委員会で運用状況を確認し、活用が出来ていない委員会・地域会等に積極的に活用するように案内をいたしました。サイト上での活動報告も充実してきました。改訂して5年目となる次年度に向けて、サイトのプチリニューアルに向けての準備を始めました。
- ・ 一般向けのメルマガ配信。Bulletin 発刊の1ヶ月後に配信して、内容も Bulletin の掲載記事を中心にしています。
- ・ 前年度より外部サイトの「LUFTA（ルフタ）」との連携をしていますが、学生の会@joint と活動の連携も見据えて、@joint 紹介ページの公開準備をはじめめています。
- ・ 学生の会@joint の協力。Bulletin に学生の会のページを設け、誌面の企画を任せています。定例会、交流会に正会員の委員も参加して、活動のアドバイスや意見交換をしています。

3. 建築相談委員会（委員長：小島孝豊）

関東甲信越支部内では、首都圏・千葉・群馬・新潟・神奈川・埼玉の各地域会が、一般市民のための身近な建築相談窓口（無料相談）を設けて活動をしております。事前に予約をしていただき、住まいづくりの進め方・選び方、建築家への依頼方法、工務店や設計者とのトラブル、マンションの修繕など、住まいについて多岐にわたった相談をボランティアで行っています。但し、相談者が居住していない業務用建物や、設計者・建設業者・不動産業者・建材業者、また弁護士など業務上の専門家からの相談は対象外としております。2021年度もコロナ禍で対面相談ができなくなり、極端な減少となりました。本年度の相談件数は下記の通りです。

（ ）の数字は昨年度の数字です。

相談室	事前相談	一般相談	トラブル相談	相談件数	現地調査数
首都圏	9(0)	0(4)	42(18)	51(22)	5(4)
神奈川	0(0)	1(0)	9(0)	10(0)	0(0)
千葉	0(0)	0(0)	2(0)	2(0)	0(0)
埼玉	9(0)	4(2)	34(21)	47(23)	0(3)
群馬	相談休止中（相談休止中）				
新潟	0(0)	0(0)	1(1)	1(1)	1(1)
合計	18(0)	5(6)	88(40)	111(46)	6(8)

○委員会の活動

・2021年度は、コロナ禍で活動が休止状態でした。2022年度も見通せない状況が続きます。

4. 保存問題委員会（委員長：太田安則）

保存問題委員会では、『保存は未来への創造である』—“保存”と“創造”とは同義である—と考えており、古い建築物の保護といった狭義の“保存”でなく持続可能な都市環境の形成を主題としてとらえ、活動しています。

何層にも重なった都市の基層を抱えているイタリアでは時代の変化を受け入れ保存することが、文化財と景観を守る法律となっており、歴史の変遷を残すことが、今に生きる証でもあります。

昨今、JIA 会員の建築に関して、JIA 会員が更新に取り組む場面が見られ、取り壊しを契機に提起される保存問題が、何をわれわれに問いかけているのかを見つめなおす状況が増えています。

2021年保存問題委員会では、旧豊多摩監獄表門要望書提出後の動向を見守り、吉田五十八邸解体後の移築先を地域会と情報交換、東京海上ビル本館建替えに対し見学会を開催する経過の中で保存問題に取り組む窓口として定期的に意見交換、日本郵船横浜支店建替え情報を地域会と共有し景観まちづくりの視点で行政審議機関経由の過程で全面保存の開発に変化していく経過を学習、根岸競馬場一等馬見所の動向見守り、九段会館の保存再生見学会を

開催、JIA 保存再生会議との情報交換等を web で頻度を高め行ってまいりました。

建築は社会の(ソーシャルコミュニティ)の形成基盤です。時代と共に生き続けるため社会に何を残し伝えるか、技術や文化の継承でどう再生するかなど、広く地域会や建築まちづくり委員会・都市まちづくり委員会等と話し合いや協力のもと、JIA 保存問題委員会としての行動に繋がりたい。

5. 苦情対応委員会 (委員長：板橋弘和)

苦情対応委員会は、建築主や一般市民からの本会会員の業務に関する苦情に対応する組織であり、苦情申し立てに応じる形で活動してまいりました。委員会は、総務委員会委員長、建築相談委員会委員長、住宅部会長を含む専門的知見をもった、8名の委員で構成されていました。

今年度は1件の苦情相談がありました。内容は、技術的な問題ではなく、JIA 会員が関わった業務における業務料の支払いに関する認識の齟齬に起因するものでした。建築士法でも定められていますが、業務を行うに際しては、契約書締結が重要であると思われます。また、苦情対応と併せて、関東甲信越支部における苦情対応の合理化のために作成した「苦情相談受付票」の運用を開始すべく本部総務委員会に提案を行い、質疑・要請対応を行いました。残念ながら、今年度中の運用開始とはなりませんでしたが、来期早々から運用を開始し、運用状況を確認しながら改善を行い、苦情対応受付の合理化を図りたいと考えています。また、引き続き、コロナ禍の影響もあり、十分な打ち合わせが行えなかった他支部や建築相談委員会との連携についても検討を行っていく予定です。

6. 支部建築家資格制度実務委員会 (委員長：宮島亨)

当委員会は登録建築家の資格認定及び登録を行う「建築家認定評議会」及び直接的に認定評議会を補佐する本部登録建築家資格制度実務委員会の補佐をその役割としております。

具体的には、登録建築家の新規申請、更新申請、再登録申請の書類審査を行い、建築家認定評議会に審査書類を提出しております。

2021年度は実績評価による新規登録者17名、更新者277名、再登録者11名が建築家認定評議会の審査に合格いたしました。

今年度も昨年と同様、オンラインにより認定評議会が行われました。認定評議会の評議員は7名で構成され、その過半数は弁護士や消費者団体など建築関係者以外の方で構成されています。消費者団体を代表して参加された方からは、登録建築家の根幹であるといえる第三者性及び自律性が担保された登録建築家に対して期待の言葉がありました。それは逆に言えば現在はまだ期待に応えられていないと言われている事であり、まず登録建築家についての建設的な議論を深め、

登録者数を増やすことと同時に社会に認知してもらうことが大切です。

7. 都市・まちづくり委員会 (委員長：近藤崇)

当委員会では、より良い景観・まちづくりを行うためには、建築分野と土木分野の協働が重要であるという認識に立ち、JCCA (建設コンサルタンツ協会) との協働を軸に活動を進めています。今年度も JCCA の専門委員会である土木・建築連携まちづくり専門委員会のメンバーを当委員会に招き、活動してきました。今期は、先期にコロナ禍の影響で開催できなかった、JCCA×JIA 協働シンポジウムを2年ぶりに開催(2022年2月)しました。今後も継続を予定する本協働シンポジウムのメインテーマを「土木と建築の協働、その可能性を探る」と改め(これまでのメインテーマは「誰が景観を創るのか」)、その第一歩となる14回目はサブテーマを「駅・駅広を中心とした地方都市のまちづくり事例から都市・まちを考える」としました。駅舎、駅広に実績を持つ設計者として建築分野から建築家の乾久美子氏、土木分野から都市設計家の小野寺康氏を、そして行政から国交省の新屋千樹氏を迎え、建築家の福島加津也氏をモデレーターにパネルディスカッションを行いました。都市の結節点である駅・駅広を中心とした地方都市のまちづくりを主題に挙げ、様々な関係者との垣根を超えた協働により、どうやって都市やまちを元気にしたのか、議論を交わし、改めて建築と土木の協働の重要性を共有することが出来ました。今回のシンポジウムは完全オンラインで実施、その動画の公開も予定しています。今後こうした活動実績のアーカイブ化にも注力していきたいと考えます。また当委員会では、建築五団体や地方自治体で構成する「景観まちづくり協議会」のWG委員会に委員を派遣し、自治体に向けたデザインレビューガイダンスの支援を継続して行っています。

8. 建築・まちづくり委員会 (委員長：連健夫)

当委員会は、建築やまちづくりを通して建築家の職域を広げるための情報共有と仕組みづくりを目的にしており、2019年度はこの基本方針と共にSDGsを中心に活動を行いました。具体的にはJIA建築フォーラムの内容について議論を深める共に、都市まちづくり委員会との合同委員会を実施し、意見交換を行いました。情報共有としては、3回のセミオープン勉強会(委員会以外の方も参加できる)を実施しました。第1回は伊藤純一氏を講師に「予防手法的保存活動やまちづくり関与など歴史の継承としての活用保存」、第2回は山本想太郎氏を講師に「建築コンペとは何か/専門性と総合性のコミュニケーションが生むいい建築」、第3回は丹羽修氏を講師に「住み継ぐ家」のレクチャーと意見交換を行いました。これらは、ブルチンの「良質な建築・これからのまちづくり」コーナーへの寄稿を通して、会員への情報発信を行いました。「良質な建

築・美しいまちづくり萌芽事例シート」については、JIA まちづくり会議と連携して事例収集を進めると共にフォーマットの更新を図っているところです。行政との良好な関係づくりのツールとしての「コンペ・プロポーザル支援リーフレット」は、支部の発注者支援活動との連携の中で更新中です。

コロナ禍において、対面活動が制限される中、オンラインのメリットを活かし、関連委員会や他団体との協働も行うことができ、次につながるネットワークづくりとなりました。次年度4月4日には、オープン勉強会として、寶神尚史氏を講師に「街とつながる住まい方の提案／事業計画とセットで稼げる住まい」を予定しています。

9. 災害対策委員会（委員長：風戸宏孝）

昨年度は年6回行われる委員会の第1回に「木造仮設住宅について（ムービングハウス）」、第3回に「長野県台風19号災害について」と2回の勉強会を行い、すべてをZOOM会議にて開催しました。その他、記憶に新しいところでは、令和3（2021）年2月13日に福島県沖で発生した震度6弱の地震に引き続き、令和4（2022）年3月16日、第6回の災害対策委員会が終わったその夜、再び福島県沖で震度6強の地震を記録しました。JIA本部では災害対策本部が再び招集され、現地からいくつかの被害が報告されました。報告の中には、昨年の地震で被害を受け、ようやく改修設計をし、補助金を申請し、コロナの影響を受け、資材の入手が困難な中やっと年度内に竣工したと思ったら、同じような場所にまた被害を受けてしまったという事例がいくつか見られ、ただため息しかできません！という報告がありました。支部災害対策委員会としては、すでに皆様にご協力頂いている、このような時に役に立つ災害ネットワークという連絡網の完成を急いでいます。引き続き、是非ご協力をお願いいたします。最後に「長野県の災害報告」の中で、災害復興に集まったある建築家から「我々はアーティストなのだから災害ボランティアではない」という意見があった事に対して、支部災害対策委員の中から「いろいろな経験を活かして次の展開がはじめてできるのだから、どんなことも受け入れるべきである」という言葉が非常に印象に残りました。

10. 環境委員会（委員長：宮崎淳）

環境委員会は、持続可能な環境建築の推進と実践に向け、会員並びに社会に有用な情報を発信することを活動目標としています。

今期の具体的な活動としては、六鹿会長のご提案で始まることになった、「2050カーボンニュートラル連続セミナー第1期」の企画・運営補助を行いました。7月8日から8月26日までの約3か月で全6回、様々な先生方や建築家の方々に講師を迎え、様々な視点から2050年のカーボンニュートラルについて、語っていた

できました。

平均で400名を超える多くの方々にご参加いただき、質問も多くとても活発な議論ができました。2050年のカーボンニュートラルを達成するにあたって、建築家として考えていかなければならないことについて、皆さんの役に立つ情報が発信できたのではないかと思います。

第2期については運営のお手伝いだけとなりましたが、今後行われる予定の第3期の連続セミナーにむけても、委員会としていろいろご協力していきたいと考えています。

10月に国の社会資本整備審議会の建築分科会における建築環境部会・建築基準制度部会に、安田幸一委員、所千夏委員から提出していただいたJIAとしての意見書の作成にもご協力をしました。また、環境委員会委員である袴田喜夫さんが委員長を務められている、JIAカーボンニュートラル特別委員会でも、活発な議論ができるよう、委員会としてバックアップを行っています。

来期も、カーボンニュートラルに寄与する持続可能な環境建築の推進に向けて、様々な情報発信等を行っていきたくと考えています。

11. アーバントリップ実行委員会（委員長：佐藤文人）

アーバントリップ実行委員会では、昨年度に引き継ぎ、新型コロナウイルス感染症「COVID-19」の対策に伴い、通常の施設見学会を中止・断念し、シンポジウム形式とオンライン中継によるアーバントリップを開催しました。

■第93回アーバントリップ各自見学+シンポジウム

日程：2021年6月30日（水）13:00～19:00

テーマ：大井町駅前パブリックスペースへフォーカス

見学先：品川区大井町駅前公衆トイレ

設計者：あかるい建築計画

企画・コーディネーター：近藤 昇

シンポジウム：きゅりあんイベントスペース

2018年JIA東京大会におけるJIA発注者支援業務コンペ当選案が実現。施主である品川区、コンペ審査委員長・JIA正会員千葉学氏による基調講演とパネルディスカッション。

■第94回アーバントリップオンライン

日程：2022年3月29日（火）18:00～20:00

テーマ：「父の家」建築家による親のための住まい

見学先：父の家（建築家千葉学氏自邸）

設計者：千葉学建築計画事務所

企画・コーディネーター：中村雅子、藏楽友美

千葉学氏によるレクチャー。千葉学氏、父一彦氏、石山友美氏によるフリートーク。Zoom Webinar 参加エントリー340名。

次年度、6月頃、第95回アーバントリップオンライン予定。

12. 建築セミナー実行委員会 (委員長:小堀哲夫)

本年度のテーマは、「環境と人の新しいつながり」である。

プログラムは、以下 11 講座で募集致した。

1. 今、建築家の役割～イノベーションから共創へ
2. 見学 | 大和ハウスグループみらい価値共創センター
3. 講演 | グレートジャーニーから地球移住計画
4. これからの建築と建築家教育(1)
5. これからの建築と建築家教育(2)
6. 気づけ日本建築の黄昏時代
7. バウハウスとは何か、そして、今、EUが提唱するニューバウハウスの役割
8. アムステルダムが推進するサステイナブル建築の今
9. 延築、弘前れんが倉庫美術館
10. 地域で近現代建築が残される理由
11. 見学 | 弘前市内の前川建築群と弘前れんが倉庫美術館

受講生は、21名であったが、見学、講演以外は、ZOOMを利用し、所属事務所所員の複数人の参加を認めたため、多くは80名、各回、平均4から50名の参加者があった。これまでは、建築家クラブを利用していたが、オンライン講座を利用することで、参加者が増え、所属事務所にも喜ばれることがわかった。一方、建築見学では、やはり実物を見ることでその建築物の特徴や地域におかける存在意義を実感できた。今後は、オンライン講座と建築見学を組み合わせることで、より多くの集客が見込まれる可能性を感じた。生憎、8.の講師の田根剛氏(在仏)はオンライン講座を嫌ったため、2023年度の講座に建機となり、その際は2022年度の受講生にも参加を呼びかけると約束した。

13. JIA トーク実行委員会 (委員長:椎名英三)

1976年よりスタートしたJIAトークは、日新工業株式会社の協賛により、社会に向けた文化的事業として、建築以外の各方面で活躍されている方々を講師に招き、年4回講演を基本に回を重ねてきた。

2020年度は、JIAの指針により、建築家会館ホールに聴衆が集まっの講演会は、コロナウイルスがコントロールできるほどの平常時にもどらない限り推奨されないとあり、断念した。

2021年度はオンライン、ハイブリッドを活用し活動を再開しつつ、2019年度の第4回目の会を繰り越し、年間5回行った。

今年度は、第3回及び第5回については、株式会社 東京デザインセンターの協力により、ガレリアホールを会場として使用した。

JIAトークは、基本的にはリアルでの集いであり、今年度は如何ともし難くオンラインのみでの開催もあったが、講師からは、オンラインの場合は聴衆の反応が伝わってこない故、リアルが望ましいという意見もあり、今後もリアル主体で開催することを確認した。第1回講演会「からだ語り得ること」

講師:北村明子(ダンサー、振付家、信州大学人文学部准教授)

2021年5月11日(火) zoomによるオンライン開催
第2回講演会「都市と流動性」

講師:和多利浩一(ワタリウム美術館CEO)

2021年7月15日(木) zoomによるオンライン開催
第3回講演会「調和の幻想」

講師:杉本博司(現代美術作家)

2021年10月27日(水)

会場開催+オンライン配信 [ZOOM]

会場:東京デザインセンター ガレリアホール

第4回講演会「未知への挑戦」

講師:堀木エリ子(和紙デザイナー)

2021年12月01日(水)

会場開催

会場:建築家会館1階ホール

第5回講演会「地球サイズの電波望遠鏡で見た 巨大ブラックホールの姿」

講師:本間稀樹(電波天文学者)

2022年3月23日(水)

会場開催+オンライン配信 [ZOOM]

会場:東京デザインセンター ガレリアホール

14. 学生デザイン実行委員会 (委員長:鈴木隆)

学生デザイン実行委員会では第30回東京都学生卒業設計コンクール2021を、5月15日(土)ならびに6/6(日)の二日間に分けて開催致しました。

コンクールに向け、月に1回の定例会を開催し、会場の選別や審査委員の選定などを行って参りました。

出展者が一堂に会しての例年通りの開催は本年も見送りにりましたが、一次審査(5/15)はオンライン配信にて行い、最終審査(6/6)は模型のみ会場に持ち込むかたちでの審査会となりました(審査員を含めた関係者全員がPCR検査を事前に受けた上での集合であった点を補足します)。

23大学6専門学校から54作品が集まりました。審査委員長には山梨知彦氏、副審査委員長に駒田剛司氏、審査委員には山田憲明氏、柄澤麻利氏、大西麻貴氏を迎えました。大変充実した議論の結果、金賞、銀賞、銅賞、審査委員特別賞の8作品を選出して頂きました。また、奨励賞には1作品を選出しました。11月末には作品集も完成し活動内容の情報発信を行っております。

コンクールのオンライン配信や作品集のデジタルアーカイブ化を行うことで、これから卒業設計を行う学生さんにとって有効に利用して頂けるコンテンツを作成できたことが大きな成果であったと思います。一年を通して有意義な活動を行えましてをここに報告させていただきます。

15. 大学院修士設計展実行委員会 (委員長:日野雅司)

「大学院修士設計展」は第20回目を迎え、参加校・

出展数とも最多を記録しました。2012年度よりWEB展に加えて、図面と模型を展示する展覧会、および1名の建築家による審査、講評を行っています。コロナの影響によりこの3年は実空間における展覧会は開催していません。作品と審査・講評、各大学の研究室紹介をおさめた作品集が総合資格学院の協賛を得て、毎年刊行されています。

2021年度は昨年同様、展覧会および公開審査は中止し、書類審査および選抜10人だけが参加する発表審査を行いました。本年度はその様子をウェビナーによりリアルタイムで発信を行いました。会場の設営や配信については、この場を借りて関係者皆様へ御礼申し上げます。

次年度はぜひ実空間による展覧会を復活させることを目標に、修士設計に対する各大学の取り組みを共有し、日本の大学院における建築教育のあり方に提言ができるような、シンポジウム等の開催も検討しており、より一層の発展を期したいと思います。

一次審査：2022年3月12日、二次審査：2021年3月21日、於：建築家会館 審査員：鈴木了二氏
参加大学：27大学（30専攻） 出展数：53作品

16. 交流委員会（委員長：相野谷誠志）

昨年度の活動は、コロナ禍の状況の中で、交流委員会での対面の会議や、各グループ内での施設見学会やセミナーでの正会員と法人協力会員（個人会員）との交流を行うことができませんでした。JIAが担う人と人の交流による情報交換の場を提供する方法として、JIA活動に協力していただいている企業（メーカー・工事関連企業）から正会員（設計事務所）に向けて、建物設計や都市計画を行うための新しい情報や製品開発での将来を見据えた設計のヒントを与えられる手段として、また建物を建設するためのすべての工程を対象としたテーマにより、実際にその製品開発や工事に携わったメーカー担当者、工事関係者からの声を届け、今後の設計、計画に有意義な情報を提供し続けていくことを目的としたオンライン（Zoom）を使っての法人協力会員が講演するセミナーを企画しました。正会員向けの「オンライン技術セミナー」として実施し、前年度からの継続で10回を超えるセミナーを開催し企業からの正会員（設計者）への有意義な情報提供を行うことができました。今後の設計業務を行ううえで新しい情報の入手や知識の向上につなげ、設計業界の発展に貢献できる活動としていきます。

また、他支部の交流委員会（他の支部では、名称が違う場合があります）との情報交換を行う一歩として、近畿支部の会員の方と双方の活動内容や情報交換を行い、各々の会議にも、オブザーバーとして参加することができました。今後も、全国の支部との交流も何かの形で行えるように企画、検討を進めていきたいと考えています。委員会では、新しい正会員の参加が滞っていることが今後の課題と考え、世代交代も含め、

できるだけ正会員の積極的な参加もお願いしたいと考えています。

IV. 部会活動報告

1. デザイン部会（部長：山本想太郎）

本部会の活動は、建築デザインおよびそれに関する職能について論じる一般公開イベントを中心とするものです。本年度も新型コロナウイルス感染症流行に伴う自粛措置のため対面でのイベント開催は見送り、下記オンラインイベントのみを開催いたしました。このイベントは2020年3月に開催予定でしたが、東京都によるイベント自粛要請により延期となっていたものです。

公開トークイベント『建築コンペとは何か —— 2021 updated version』日時形式：2021年10月21日（木）18：30～20：30。Zoomウェビナー形式。CPD2単位。登壇者：塩崎太伸（建築家）、川勝真一（建築ディレクター）、津川恵理（建築家）、倉方俊輔（建築史家）、山本想太郎（建築家）。

内容：建築コンペは歴史に残る多くの建築を生み出してきましたが、2013～15年にまき起こった新国立競技場計画をめぐる騒動は、コンペを含む、建築界が繰り返してきた形式の設計プロセスが、社会と建築とのコミュニケーション基盤として適切に機能するものではなくなってしまっているという問題を浮き彫りにしました。その顛末の一応の区切りともいえる東京オリンピック/パラリンピックを終えたこのタイミングで、「建築コンペ」そして建築と社会とのコミュニケーションについてこれからの可能性を探るディスカッションを行いました。新国立競技場コンペの分析、歴史的なコンペが多くの紆余曲折を経ながら名建築を生み出したことへの考察、実際に登壇者が経験したコンペとその後の建築プロセス、といったプレゼンテーションをベースにした議論を通して、コンペという形式を変革し、現代的な建築のプロセスに適合させられれば、建築デザインの社会性にも貢献しうる社会基盤になるというポジティブなヴィジョンが提示されました。モデレーターは『みんなの建築コンペ論-新国立競技場問題をこえて』（2020年）の著者2名（倉方、山本）が務めました。

当日の参加者（聴講者）は101名。JIA会員をはじめ多くの建築家、建築関係者、学生にご参加いただき、反響も大きかったため、今後も本テーマについてのイベントは継続する予定です。

2. 都市デザイン部会（部長：宮崎淳）

毎年、講演会やまち歩きの開催、部会員によるショートレクチャーと活動報告、研修旅行と積極的な活動を行ってきていましたが、コロナ禍で状況は大きく変わってしまいました。2020年からコロナの影響により、対面での講演会、まち歩きや研修旅行の開催ができなくなり、その後も、毎年恒例の部会員によるショート

レクチャーを開催するタイミングを見計らっていましたが、結局、実際に集まる会を開催できるほどコロナの勢いが収束することはなく、タイミングを逸してしまいました。

来年度も研修旅行の開催は難しいと思いますが、リモートでの講演会、部会員によるショートレクチャー・活動報告会を開催したいと考えています。

3. 住宅部会 (部会長：中村雅子)

2021年度は引き続きオンラインが中心の活動となりました。Zoomにも慣れてきてmeetingだけでなく、部会の日2回はWebinarにて開催しました。うち1回は支部として初めて建築家会館大ホールを配信会場とし、住宅部会員スタッフの手で「特別企画『祈りの庭と建築』中村拓志氏セミナー」を行い、大成功を収めました。又、本年度は年間テーマ「デザインとは」をキーワードに海外へ旅したかのような企画も行いました。協力会員との懇親の会もオンラインで実施できました。今年度は新たな会員が多く加わりました。組織として平均年齢が下がり、活性化しています。JIA正会員への入口役を住宅部会が一部、担っているかと思えます。

■ 運営について

1) 住宅部会の日 (勉強会、作品レビュー、見学会、講演会、作品展、納会など)

原則毎月1回、部会活動の日時と場所を設け、主に会員相互の研鑽、情報交換や交流を目的とした企画を開催。2021年度は原則10日を活動の日とし、その他適宜イベントに応じた曜日や日時を設定

□第1回 住宅部会の日 <4月12日(月)>45名参加 zoom meeting

・活動会議+住宅部会賞2020受賞者作品レビュー(5選)

「Y-House and Studio」中村雅子/「土間のある平屋の家」横堀将之

「四季を感じながら住む家」中澤克秀(渡辺武信賞)/「住み継ぐ家」丹羽修(荒川幸子賞)

「えねこや六曜舎」湯浅剛(部会長賞)

□第2回 住宅部会の日 <5月12日(水)>23名参加 zoom meeting 担当：宮島亨

「住宅部会が考える、これからの住まいづくり」～住宅部会版住まいづくりのガイドブック～

旧)市民講座WGは名称を変え対市民活動について話す会を設置しました。

□第3回 住宅部会の日<6月24日(木)>14名参加 zoom meeting 担当：米田雅夫

協力会員と住宅部会事務局メンバーとの懇談会

□第4回 住宅部会の日 <7月7日(水)>担当：関本竜太 360名参加 zoom webinar/youtube 390回(3/23時点)「北欧 アルヴァ・アールトを巡る旅 II」ガイド役：関本竜太(SADI理事) 遠藤悦郎(グラフィックデザイナー・SADI海外会員) 主催：JIA住宅部会+SADI 北欧建築・デザイン協会(共催) Visit

Seinäjoki(ヴィジット・セイナヨキ)及び池元マウル和恵 ガイド協力で大好評

□第5回 住宅部会の日 <8月5日(木)>22名参加 zoom meeting 協力会員さんとの懇談会：テーマ「セッション：階段」司会：久保田恵子 発表：横森製作所・安藤正徳+田口知子、関本竜太、寺山実、横堀将之、加藤将己、中村雅子

□第6回 住宅部会の日 <9月10日(金)>25名参加 zoom meeting 協力会員さんとの懇談会：テーマ「とことん語ろう木の魅力について」司会：飯沼竹一 発表：東京工営・松本直人+中村高淑 高橋隆博 丹羽修 井野勇志

□第7回 住宅部会の日<10月12日(火)>41名参加 zoom meeting 担当：中村雅子

イタリアとは・日本人・クリエイティブ【アーツ】コアとは～日本にある「地下水脈」と「社会の奔流」からの脱出へ/JIA住宅部会+NPO日本デザイン協会/後援：公社日本インダストリアルデザイン協会

講師：大倉富美雄/司会：川澄一代/JIA Bulletin 2020年夏号(vol.284号)～2021年春号(vol.287号)にて4回連載された日本型規制社会と知的生産 -イタリアン・セオリーから学ぶもの-の総括講演セミナーを開催

□第8回 住宅部会の日 <11月10日(水)>担当：関本竜太 司会：中村雅子 配信：10名/300名参加 zoom webinar/youtube 2800回(3/23時点)テーマ 特別企画『祈りの庭と建築』

2021年度建築学会賞を受賞された中村拓志さんを講師にお招きしセミナーを開催

□第9回 住宅部会の日<12月10日(金)>17名参加 zoom meeting 担当：丹羽修

忘年会 フォトコンテスト「今年の一枚」テーマ「今年の現場より」

□第10回 住宅部会の日 <1月28日(金)>

担当：高橋隆博「東京の森～多摩産材見学会」延期

□第11回 住宅部会の日<2月14日(月)>27名参加 zoom meeting

「第4回住宅部会賞10宅選」公開選考会 25作品応募(新入会2名)

□第12回 住宅部会の日 <3月14日(月)>

zoom meeting 納会・総会

「第4回住宅部会賞10宅選」選考結果発表・表彰式/応募料：無料、選考委員長：中村雅子(第42代住宅部会長)特別選考委員：渡辺武信(第6代住宅部会長、名誉住宅部会員)選考委員：室伏次郎(日本建築家協会・元副会長、住宅部会員)5選選出

「KOTI」関本竜太/「中村自邸+2つのアトリエ」中村高淑

「くの家」津野恵美子(住宅部会長賞)/「futaba～それぞれの距離を考える家」伊藤昭博(渡辺武信賞)

「土間のある家～ふたりの棲家」三上紀子(室伏次郎賞)

4. メンテナンス部会 (部会長：奥澤健一)

昨年度試行したWebセミナーを今年度から本格的に開始しました。マンションを中心とする建築物の修繕や改修をテーマとして、主に部会メンバーの実務における事例紹介をメインとしたセミナーです。外壁修繕工事の技術的課題の整理、耐震改修の成功事例、給排水設備の改修、外構や植栽といった環境整備など、幅広い題材を取り上げています。これまでの30年間に渡り継続してきたセミナーと同様、建築士をはじめ、施工会社や材料メーカーの技術者、マンション管理組合の役員や居住者などのマンション管理に携わる方々に広く公開するかたちで開催しています。部会で作成した「マンションの大規模修繕30年の軌跡(2017年発刊)」「マンションを100年以上使っていくために今やるべきこと～築50年時代のマンション再生～(2019年発刊)」も販売を継続して、マンション改修に関わる歴史や技術的な変遷、長寿命化に向けた取り組みなどを紹介して、建築物の維持保全・再生の重要性についての啓蒙に努めています。新型コロナ禍のため以前より回数は少なくなったものの、(公財)マンション管理センター主催のセミナーへの講師派遣や、地方公共団体、マンション管理組合団体などからの相談なども継続しています。今後も引き続き建築物、特にマンションの修繕や改修をテーマに、部会メンバー間で実践的な技術情報の共有と発信、耐震改修や設備改修、さらに超高層マンションの大規模修繕などにも積極的に携わり、マンション管理組合の支援をしていきたいと思っております。

5. 住宅再生部会 (部会長：岸崎孝弘)

21年度も引き続きコロナ禍により、思うような活動を行うことができないままに終わった。定例の幹事会もZOOMにて4月に行って以降、10月に2回目を実施したのみで、22年に入ってから開催を見送り現在に至っている。住宅再生セミナーも同様に1回も開催できずに終わっているが、オンラインでのセミナーなどを今後検討していきたい。フィールドワークも実施できなかったが、展示会やオープンハウスなどの情報をメールなどで共有し、参加できそうなものには各個人で参加し研鑽を積み重ねている。住宅再生部会では自由に誰でもが参加出来るセミナーとしているため、多くの聴講者が集まり、毎回熱心な議論が行われるのが常であるので、今後もZOOMなどを活用してのセミナーが開催できる準備が整い次第、改めて広報し、オープンな開催を行いたいと考えている。引き続きのテーマとして、空き家問題、超高層マンションの問題など、職能としてのインスペクション制度などにも展開を広げており、勉強会や見学会から、人の輪を広げる展開を行いたいと考えている。また既存木造住宅の耐震性能を向上させる工法・技術

やSDGsなどに関連する技術などについて学ぶ研究会を行うことを検討しており、今後もこの活動を続け、住宅再生の実践も増やしていくことが大切と考えている。

6. 情報開発部会 (部会長：天神良久)

情報開発部会は法人協力会員Gグループと合同で、月に一回部会・勉強会を開催しています。主なテーマはIT系(CAD、CG、情報通信)と、時の技術動向に関する勉強会が中心です。今年度はコロナ禍でもあり、対面出来ない為、部会はZOOM(Web会議システム)を利用して、部会員の近況報告を中心に行いました。また、勉強会もZOOMを利用して、外部講師による最新の動向を発表してもらいました。尚、コロナ禍のため、開催回数は例年と比較すると、大幅に減りました。勉強会のテーマ事例は、「東急コミュニティー:技術研修センター NOTIA:空気調和・衛生工学会「第59回学会賞技術賞」を受賞 NOTIAの建物・設備概要紹介」、「東京美装興業:設計BIMとFMBIMの動向」等々を開催しました。見学会は、2021年度は中止となりました。新会員は随時募集中です。JIA 関東甲信越支部のホームページに「勉強会」のお知らせを掲載しています。ご興味の方はお気軽に部会・勉強会にご参加ください。

7. 建築交流部会 (部会長：観音克平)

コロナ禍状況下、白井晟一展見学、東京海上日動ビルでの昼食会など個人活動情報の共有と参加。
6月29日(火)三鷹駅前周辺コミュニティーセンター(三鷹市下連雀3-13-10)16時～。第1回家協会建築交流部会
観音、木村、亀井、大森、平尾 出席
・コロナ禍での活動状況報告など
8月10日(火)三鷹駅前周辺コミュニティーセンター(三鷹市下連雀3-13-10)16時～。第2回家協会建築交流部会
観音、亀井、大森、平尾 出席
・コロナ禍での活動状況報告など
10月26日(火)神宮前トゥーザハーブス本店18時～。第3回家協会建築交流部会
上田、観音、亀井、大森、平尾 出席
・各人活動報告、今後の展望など
12月20日(月)新宿110ビル北海道にて18時～。第4回家協会建築交流部会
木村、観音、亀井、大森、平尾 出席
・現金はすべて銀行に入金したことを報告。
2月8日(火)JIA事務所に事務局大西さんを訪ねる。
・オンライン機器確認、三多摩会及び空間ワークショップの件を確認のためJIAとの打ち合わせ。
観音、亀井、大西 出席
今後の活動拠点、方向などについて継続協議。

8. 再生部会（部会長：大橋智子）

再生部会は、歴史的に価値のある既存建築物を使い続けるための活動を継続しています。約 15 名のコアメンバーを中心に、関東甲信越支部以外の会員も参加して、毎月定例会を開催しています。今年度もコロナ禍のため、会議は全て WEB で行いました。部会員が持ち寄った歴史的建物の画像を使った内部勉強会、各地からの情報交換、保存再生に関する意見交換を行いました。2021 年度は定例会の他、再生部会の活動を広く知ってもらうため、部会員が関心のある再生事例を「JIA 優秀建築選『保存再生プロジェクト部門』受賞作品」から選び、設計者を講師に招く公開 WEB セミナーを 2 回開催しました。

■セミナー第 1 回/6 月 25 日 「古民家を現代美術館に COCONO アートプレイス」講師 中西ひろむさん

■セミナー第 2 回/10 月 13 日「地域の記憶を未来に継承する 宿毛まちのえき林邸」講師 古谷誠章さん
セミナー終了後、質疑応答と講師との意見交換を行いました。

■「九段会館」保存再生事例見学会に参加（保存問題委員会主催）

9. ミケランジェロ会（部会長：亀井天元）

コロナ禍状況にあり、メール連絡などにより、メンバー各人の活動（作品展など）及び状況報告の共有。今後、大和田ギャラリーの発表が再開できる展開になるよう努力中。（大和田への参加者、会場の壁クロス張替えなど再整備状況などによる。）

新規若手メンバーの参入を目ざし

<https://www.next-city.com/main/modules/bulletin/>
PR 活動中。

今後の作品発表と傾向、若手メンバー拡大について、機会をとらえ継続協議。

10. 金曜の会（部会長：久保田恵子）

金曜の会は、建築家クラブの活性化を目的とし、トークイベントを開催しています。

建築家会館のクラブ・バーは、開設当時、前川國男等と語りあえる場、各分野の方々との交流の場として、とても賑わっていましたが、一度は閉鎖、2008 年前川國男が提唱された「処士横議の場」の復活を目指し、クラブ・バーの再開、建築家クラブが併設されました。現在、金曜の会では、“建築”をキーワードに、JIA の会員のみならず、学生、一般の皆様と共に、学び・楽しみ・語り合えるサロンとしての活動を行っています。2021 年度は、昨年に続き“新型コロナウイルス感染症”により、皆で集まるといことが難しい状況でしたので、オンラインを活用し、JIA 建築大賞・新人賞など受賞の方の発表の場としての配信、また対談形式でオンラインではありながらもサロンであるかのようなトークイベントを創ろうと配信を続けております。また、書籍化の第二弾・6 回連続講座を“金曜の会の記録”として、内藤廣氏の出版にむけ、(株) 建築家会

館、建築ジャーナル、金曜の会メンバーで力をあわせて取り組んでおります。お世話になりました関係者の皆様には感謝申し上げます。

11. 学芸祭部会（部会長：大川宗治）

学芸祭部会は、協力会員も含めた J I A 会員同士の交流という目的のもとに活動しております。例年は、新年の集いや JIA 大会における演奏などの活動を通じ、他の支部を含めた会員同士の交流を図っておりましたが、今年はその機会がなく、活動はありませんでした。

V. 地域活動報告

1. 神奈川地域会（代表：小泉雅生）

今年度の神奈川地域会では、引き続き「サステナビリティを考える」を活動テーマに掲げました。コロナウィルスの感染拡大の影響を受け、活動は大きく制約を受け、4 月の総会を WEB 開催としたのを始めとして、月に一度の定例の役員会もオンライン開催となりました。協力会の方々と一緒に納涼会や望年会も見送りとなりました。そのような状況ではありましたが、対外活動に関しては十分な感染対策をしつつ、対面開催を基本方針として臨みました。

10 月 31 日(日)に開催された「建築フォーラム」では、象の鼻テラスを会場として「これからの学校建築を考える」と題したシンポジウムを企画し、建築計画学や教育学の学識者に登壇いただきました。オンラインと会場を含めたハイブリッド型とし、県下の自治体の参画も得て、多角的な議論が繰り広げられました。

3 月 4~6 日にかけて開催された「かながわ建築祭」は、例年よりコンテンツを抑えた形とはなりませんが、いずれも対面開催をしました。シンポジウムでは「設計者選定制度のこれから」と題し、行政、コーディネーター、応募（設計者）という異なる立場から問題を掘り下げ、登壇者・会場を含めて議論を行いました。これもハイブリッド型として、会場／オンライン含めて 120 名程度の出席がありました。卒業設計コンクールは、今年は「よこはま市民ギャラリー」に場所を変え、福島加津也氏（審査員長）、高橋一平氏、中村竜治氏、富永美保氏に審査を依頼しました。模型展示も 2 年ぶりに再開し、延べ 500 名の方に来場いただきました。また、まちあるきでは、笠井三義氏を講師に、今後返還が予定される根岸競馬場および周辺のモーガン建築を巡るという充実したツアーを企画しました。著名な作家を含め 20 名強が参加するなど、注目度の高いツアーとなりました。

他の活動として、建築相談室は、感染対策を施しつつ、10 月に再開することができました。また、横浜市のまち普請事業で採択された子安台のコミュニティ拠点作りのプロジェクトへのサポートを行いました。まちづくり保存研究会が編集した「横浜近代建築」の書籍は、好評につき増刷の運びとなりました。

「建築フォーラム」および「かながわ建築祭」のシンポジウムは横浜市建築局と共催し、包括連携協定を活かした連携が図られました。また、卒業設計コンクールでは総合資格学院から協賛いただき、協力会からはJIA 神奈川の活動全般への支援をいただきました。この場を借りて感謝をしたいと思います。

最後に、JIA 神奈川の組織運営についてですが、事務局スタッフがご家庭の事情により退任され、代わりのスタッフが加わることとなりました。来年度以降もアクティブな活動を進められる体制が維持できたかと思えます。

2. 千葉地域会 (代表：森田啓介)

■活動の基本方針

本年度のスローガン

『Discover True Architect』
～ 新しい時代における建築家の職能の探求 ～
益々不透明になりゆく社会を直視する中で、JIA 千葉の社会的意義を発掘し、会員にとっての魅力を再発見する旅に出ることをイメージして今の実態に即応した活動を理念に活動しています。

具体的な取組みとしては、下記の4つの活動方針を軸にABC3つの取組みを展開しています。

【活動の方針】

- ・新しい時代の建築家としての高い能力の持続的確保
- ・公益法人の社会的意義の掘下げと会員の誇りの追求
- ・建築家にできる地域社会へのソリューションの探求
- ・業界を超えた他団体交流・協働による社会認知UP

【活動の取組み】

- A. つづく社会に向けた取組み
- B. 団体の価値向上のための取組み
- C. 会の安定的な運営に向けた取組み

■会員拡大WGの創設と運用

様々な団体が会員の高齢化による減少が待ったなしの状況に置かれる中で、JIA千葉もまさにその渦中であり、本部方針で地域会加入が義務化されない以上、今動かなければ地域会は座して死を待つ事になります。こうした事から、若手とベテラン数名による会員拡大WG(ワーキンググループ)を結成し、あらゆる活動を会員の発掘・増強に特化した視点から見直す取組みを始めました。

これにより、公益社団としての社会的意義に加えて、会員にとっての魅力ある組織づくりを目指します。

■ちばの木づかいプロジェクト

JIA本部より50万円の公益活動助成金を受け活動した『千葉の森林再生プロジェクト』に続いて、本年はようやく種火となったこの千葉県産木材活用の機運を具体的に裏づける活動として、林野庁・大学・法人協力会との協働によって国産木材の自給率を1.4倍に引上げる国の目標に呼応して千葉県産木材の生産と利用増加を具体的に考える為の学習会を開催する予定でしたが、コロナ禍の影響で8月・2月の2

回が延期となり、2022年度に引き継ぐ事となりました。

■第34回千葉県建築学生賞(3月12日・13日)

建築団体の卒制コンクールでは、全国の先駆けとして本年で34回を数える本賞は、建築学会・建築士会・事務所協会を含む建築設計4団体で協議会を創設して運営しています。JIA全国学生卒業設計コンクールへの出展作品の選定も本賞の審査で決まります。本年は2年ぶりに出展学生が会場に集合して学生自身によるプレゼンテーションの場を公開の形で提供することが出来ました。

■その他の活動

本年の活動はコロナシフトで代表交代のあった総会をはかるうじて現地出席とWEBのハイブリッドで開催できましたが、現地対面となる多くの活動が中止や延期となりました。そんな中でも特に光るのは、役員会が活発な事でした。開催はハイブリッドながら非常に充実した感があり、会員拡大WGと併せて業界をとり巻く諸問題(例えば現場監督の質の低下や入札・プロポーザルに関する事、或いは地域の保存問題など)への意識を共有することが出来たと思えます。次年度はこれをひも解いてより多くの会員と共有できるようにして、これを会員に有意義な活動に進化させてゆく年になればと考えています。

3. 埼玉地域会 (会長：代田正司)

今年もコロナ禍の終息が見られず行動には自粛を求められる中、昨年来の活動手法に改善を重ね活動が後退することなく維持されるよう努めた。

4月に行われた(一社)埼玉県建築設計監理協会主催の卒業設計コンクールに協力して、JIA埼玉賞の選出を行うためオンライン上で書類一次審査を行い7名の一次審査通過者を選出後、7名全員によるzoomを利用したプレゼンテーションによる二次審査を行い、JIA埼玉最優秀賞、JIA埼玉優秀賞を選出し、全国大会へ推薦した。コンクール参加者にはコンクール終了後も連絡が取れる体制を作り地域会で行う行事に参加を促し、JIA活動を理解してもらい将来の会員増強につながるよう努力している。

5月13日に地域会総会を会場とzoom・書面を組み合わせたハイブリット方式を採用して開催した。2020年度事業・決算報告、2021年度役員人事・事業・予算計画等の事案全ての承認を得られた。

建築相談は、昨年より取り入れたHPで募集するzoomによる相談が軌道に乗り順調に回数を重ねている。面談による相談も状況の許す限り十分な感染対策のもと継続して行っている。相談件数は増加の傾向にあり埼玉地域会の重点活動項目の一つでもあるので、今後も相談員の増加も含め充実した活動を継続したい。

10月9日、10日JIA埼玉空間ワークショップを、さいたま市文化芸術都市創造活動公募プログラムとして十分なコロナ対策を行った上で開催した。今年のテ

ーマは「ごちゃまちをつくろう！！」子どもたちを対象として、新聞紙・牛乳パック・段ボール・プラスチックダンボール等、廃品を利用して、思い思いのまち空間を創作するというもので創造性あふれる作品が数多く制作された。また今回は建築においても持続可能な社会づくりを目指すJIAの考え方を広く知ってもらうため、「自然エネルギーのパワーを知ろう」をもう一つのタイトルに掲げ、太陽光発電による自然エネルギーの利用、断熱等による気持ちの良い空間づくりが体験できる装置を設置し広く周知を行った。2日間にわたり多くの親子での参加者を得られた。毎月の定例役員会は全て zoom にて開催した。回を重ねる毎にリモートによる不自由さは感じられなくなっており、逆に役員の参加率は上がっているように思われる。コロナ禍終息後においても時間の節約・遠方会員の参加等において会議開催の有力なツールとして検討している。役員会では昨年よりの懸案であるアクティブ会員の増強問題が引き続き検討課題として取り上げられてきたが、未だ結果を出すには至っていない。昨年より取り入れた Slack の活用は徐々に成果が見られるものの、全会員に周知徹底され活用されているとは言い難い。会員個々に直接働きかける方を今年度より検討中である。地域会内の役職交代・引き継ぎが難しくなっており、次年度の役員会でその方法等について協議して行くこととした。地域会活動には極力多くの地域会会員が参加できるような体制作りを目指して活動している。

4. 茨城地域会（会長：大山早嗣）

1. 総会の開催

茨城地域会会則第9条2項により2021年4月23日に茨城地域会総会を催し、2020年度事業報告及び決算、2021年度活動計画及び予算についてご承認いただきました。

2. 例会の開催

事業の内容・予算・進捗状況の確認及び会員相互の情報交換・親睦を目的として10回の例会を開催しました。

3. 茨城県消費生活センター建築相談への協力

茨城地域会では毎年茨城県消費生活センターの依頼により相談員を派遣し建築相談に協力しておりますが、本年度も計12回の建築相談業務に会員を派遣しました。

4. 会員作品展開催

中心商店街の活性化とJIAのPR及び会員の皆様の研鑽を目的として、毎年開催しております「茨城の建築家展」ですが、本年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、2022年3月18日から3月31日までWebの展示を行いました。

5. 北関東甲信越学生課題設計コンクールへの協力

関東甲信越支部の事業として地域会からは会長が審査に参加。今年度は2022年3月26日、27日にオンラ

イン（Zoomウェビナー）にて開催されました。

6. 建築文化講演会

日本建築学会関東支部茨城支所と共催で、建築文化の創造と発展に貢献することを目的として、2022年3月25日オンライン（Zoom）にて「建築文化講演会」を開催しました。講師に種田元晴氏を招き、演題は『大江宏を考える』建築の魅力と今こそ再考すべき意義』を講演いただきました。

7. (一社)茨城県建築士事務所協会主催の茨城建築学生賞への協力

「茨城建築学生賞」は(一社)茨城県建築士事務所協会が建築文化の向上と発展に努め、公共の福祉の増進ひいては地域文化の活性化に寄与することを目指し、県内に建築系学科を有する学校各位と連携のもと、優秀な作品を表彰し、学生諸君にエールを贈ると共に、学生たちの交流を深め、建築設計業界が社会に貢献するための下地作りを目的として開催しております。例年は笠間市にある「かさまの家」に作品を展示して、審査を行ってきましたが、今年もWeb上のみの展示としました。茨城地域会では2021年度もJIA茨城地域会賞を設け「茨城建築学生賞」に協力しました。

8. 茨城大学建築都市デザインレビューへの協力

茨城大学都市システム工学専攻/学科では2018年3月より毎年、卒業制作及び建築設計授業における作品の発表及び合評会を開催しています。茨城地域会では事業協賛するとともに、2022年3月12日の合評会へ参加し「茨城大学建築都市デザインレビュー」に協力しました。

5. 栃木地域会（代表：武井貴志）

栃木地域会では毎年、県内の大学高専専門学校の建築関係学科卒業制作作品を対象に、栃木クラブ賞として、作品発表と選考会の機会を設けてきました。2022年3月13日第38回栃木クラブ賞を開催しました。

会場は、宇都宮市街地にあるデザイン系専門学校「宇都宮メディアアーツ専門学校」の1階ロビー。各校からの推薦作品6作品と学生からの公募作品2作品の中から最優秀作品1点を選考し表彰しました。

例年ですと表彰式ののち、学生間の交流を目的に昼食をとりながらの懇親会、審査委員長として招待した著名建築家による一般公開の講演会と続きます。参加作品の展示も選考会に先立ち一週間の公開展示を行っていました。

しかし残念なことにコロナ禍のため、開催は選考会みの半日開催。参加者は出展学生と指導者ほか数人に選考委員の地域会メンバーのみ。規模を縮小しての開催となりましたが、選考会は公開討論、選考委員の熱い討論は例年通りであったことをご報告しておきます。特に今年は例年に増して力作の模型が並びました。これもコロナ禍の一影響かとしばし納得。

栃木地域会はこのほか、学生を対象に街を歩き解説す

る「スクール in 栃木」。一般市民や地域会メンバーを対象に「まち歩き建築見学会」を行ってきましたが、やはりコロナで中止となりました。

この数年各分野でリモート環境が急速に整備されました。コロナによる僅かの好転事象ですね、栃木地域会でも早くから月一の例会に ZOOM によるリモート会議を取り入れてきました。対面での飲食の機会も失われてしまったため、例会の後は「建築サロン」と呼ぶメンバー相互の小講演会、と言うか小講演をつまみの飲み会となります。昨年の報告にもあるように、参加の容易さにより、地域会メンバー以外にも呼びかけ参加を募っています。この中から数人の入会者も生まれています。

6. 群馬地域会 (代表：上原和彦)

昨年度同様、「JIAらしいフラットな共同体」をテーマに多くの会員が関わる組織づくりを行い、『一人はみんなのために、みんなは一人のために』をスローガンに、全地域会員一丸となった運営を目指しました。

今年度も新型コロナウイルス対応に振り回された感は拭えませんが、リモートにも慣れ、会議は全てオンラインで行い、事業については感染拡大状況に応じて最小限の運営スタッフは会場に集いオンライン配信を行ってきました。特に 11 月の建築学校では登壇者も多く相当数のスタッフが必要であったため、事前に検討を重ね、十分な対策を行ったうえ例年に近い形で実施することができました。また、配信機材も今後も見据え新規購入するなど、物理的にも技術的にも次年度以降に活かせる事業であったと考えています。

OGA トーク ～みんなと一緒に考えよう～

・第 1 回「ウィズコロナ・アフターコロナの社会と建築」6月3日開催：ウィズコロナ建築の手法について建築家だけではなくメーカー系である協力会の方々の取組みについてもお話を伺い意見交換を行った。また、アフターコロナ建築に対し我々に何ができるのか議論を行った。

・第 2 回「JIA 群馬クラブ・会員作品『オンライン見学会』」7月16日開催：現時点でリアルでの開催が難しい見学会を3名の会員が自身のアトリエや自邸を中心に案内・解説して頂いた。

・第 3 回「ノースライトの建築」11月6日開催：建築学校のテーマの一つとなった「ノースライト」を題材として、ノースライトを用いた建築を中心に7名の発表の後、意見交換を行った。

○第 10 回 建築学校 11月6日開催

群馬地域会で晩秋の恒例となっている『建築学校』と称した研鑽事業を開催。この事業は高崎にゆかりの深いブルーノ・タウトが暮らした少林山達磨寺で、この地で氏が夢見た建築学校を年に一度開校するもの。今年度で第 10 回を迎えるため記念大会として位置づけ、我々の活動を広く知って頂くためメインゲストにベストセラー作家をお迎えし、冒頭に初回開催時の思い

やきっかけ、過去 9 回の内容紹介などを織り交ぜるなど、多彩な内容での構成となった。テーマを「エリカ & タウトとノースライトの建築」としタウトに同伴したエリカにスポットを当てると共に、タウトの椅子を題材とした小説「ノースライト」を著した県内在住の小説家横山秀夫氏をメインゲストに、建築外視点でのタウトについて意見交換を行った。

・第 1 時限 GA トーク「ノースライトの建築」：達磨寺の廣瀬ご住職による北極星信仰のお話をはじめ、地域会メンバーらによるトーク。からっかぜが強い当地にも拘らずノースライトの建築は意外と多く、新たな視点で建築を捉える興味深い講義となった。

・第 2 時限 講演「エリカ&タウト」：タウト研究の第一人者であるお茶の水女子大学名誉教授の田中辰明先生による伴侶エリカを取り上げたご講演。建築家のパートナーにはその発想やものづくりに影響を与えるケースが少なくない。今後も更に深める価値のあるテーマであると感じた。

・第 3 時限 対談「タウトと小説ノースライト」：NHKにてTVドラマ化された「ノースライト」。タウトの椅子を巡り竣工直後のすまいを放棄し失踪したクライアントを追う建築家を描いたミステリー。取材の全面協力を行った上武大学教授の藤井浩氏に聞き手をお願いし、取材時のエピソードや発見などを中心にお話し頂いた。両氏は旧知の仲で対談は初。終始やりにくそうな雰囲気とユーモラスなやりとりが会場を和ませ興味深いお話が次々と展開された。建築以外のジャンルの方が語るタウトへの視点が新鮮であった。

・第 4 時限 フリートーク：前述の 3 氏に主催者代表を加え、前段で語られなかったことやそれぞれの講演に対する疑問などを深掘りした。小説の着想の経緯や進行のプロセス、タウトやエリカに対する印象などが語られ、建築発想との類似点や小説家独特のプロセスなどが掘り起こされ、文学をより身近に感じる時間となった。

残念ながら聴講者はリモート参加ではあったが、感染が小康状態の時期に開催できたことは幸いであった。

○第 25 回 JIA 群馬クラブ学生卒業設計コンクール 2022 3月27日開催

(支部事業である第 16 回 JIA 北関東甲信越学生課題設計コンクール 2022 及び 赤松佳珠子特別講演会と同時開催)

今年度もオンラインでの開催となった「学生設計コンクール」であるが、昨年度と比べると出品作品数も増え、コロナ禍以前並みとは言いが盛況の内に無事幕を閉じることができた。オンラインでの審査にも双方共だいが慣れてきたとはいえ、学生の皆さんと模型やパネルを前に直接言葉を交わすことができない不自由さ、また、コロナ渦中での学生の皆さんのご苦勞を感じ、遣る瀬ない思いは今年も続くこととなり誠に残念であった。

○まとめ

2 か年度越しで無期延期となっている「建築シンポジウム～畑の中のパルテノン旧松井田町役場について～」(まちなか建築展併設)は感染状況の先が読めず今年度も開催見送りとなり、近年定着していた「まちあるき」や見学会など多数が対面する事業は実現できなかったことが心残りであった。

7. 山梨地域会 (会長：奥村一利)

山梨地域会の本年度の活動を簡単に報告する。

■見学会

○会員の作品2例を見学した。

- ・お寺の耐震補強及び大規模改修
- ・木造の老人福祉施設

■「山梨県高校卒業設計コンクール」

参加、審査を行い、賞状とトロフィーの授与を行った。今年度はコロナ感染症対策のため授与式は中止となった。

■「長野県学生卒業設計コンクール」

参加。

■「北関東甲信越課題設計コンクール2021」

参加。(コロナ対策のためWEBでの開催となった。)

■行政への働きかけ

○甲州市ワインリゾート計画

甲州市勝沼町岩崎地区住民の方の活動に参加。市長説明に参加した。

8. 長野地域会 (代表：新井優)

2021 年度も収まらないコロナ禍での自粛の中で、『共(友)に学ぶ』をテーマに活動を進めていく為に会員一丸となって、感染予防対策上での活動を工夫しながらの2021 年度となりました。

会としての方針『会の運営に係わる会議はリモート、活動はリアル』も慣れてきて、蔓延防止期間中であっても屋外での“まちあるき”や、“現場見学会”等を、開催出来た事は今後の希望でもあった。

この二年間の経験により、事業計画は従来通りの方法として直前に中止アナウンスするのは会としても良くない為、最初からどのような状況になっても開催できる内容で計画した。

社会は巣ごもり需要で住まいに対する期待も高まっているが、反面ウッドショックや建設コストの急激な上昇により設計者にとっても厳しい環境となっています。このような状況の中でも JIA 憲章を心に秘め設計者として社会に貢献していく気概を持ち続けながら日々の仕事に臨んでいくときに、会の友の存在が大きな力になってくれる事も再認識した一年でした。

2021 年度として8つの活動方針を掲げました。

- 1、地域と連携し、地域に貢献する JIA 活動を目指す。
- 2、公益法人として良質な情報発信の強化を図る。
- 3、魅力的な事業の展開とコンパクトなクラブ運営を心がける。
- 4、会員の資質向上と業務環境の改善を図る。

5、会員間の交流促進と新会員の増強を図る。

6、地域会・支部及び他会との積極的な交流を図る。

7、災害時の初動体制の準備。

8、これらの目的を達成する具体的な方策

(具体的な活動報告)

・委員会構成は昨年同様に、総務委員会、広報委員会、交流委員会、事業委員会、まちづくり委員会、信州の地域材委員会、災害対策WGのチーム分けで具体的な事業を進めた。

・4/23 通常総会には多くの参加意思表明を頂いたが、コロナ禍にて残念ながら書面表決としました。

・広報誌「建築家通信」は、会員へは年2回のPDF配信とし、行政や関係団体には郵送。活動報告等のよりタイムリーな発信は会のHPに掲載した。報告は指名メンバーによる私感も交えた内容で面白い。

・HPは事務局の努力と各委員会の事業報告等でよりタイムリーな情報発信に心掛けた。今後はより強力なプラットフォームになるべき進化に期待したい。

・恒例の「信州の建築家とつくる家 第17集」は、今年度も年度内発刊の目的達成が出来た。会員の資質や長野県の建築文化の向上を目的として出版の意義を捉えているが、何よりこの本に掲載される事を目的として若い建築家の入会の動機付けにもなってきた。毎回ですが広報委員長や出版関係者には大変なご苦勞を頂いた。

・5/21には“地域材を考える”集会を行い、ウッドショックによる状況の情報交換を行った。

・災害対策WGにおいては、平時の備えこそ最大の活動と位置づけ、有事に備える準備を行う。又、実際の災害復興過程の長野市へは住宅相談業務へ会員が交代で参加した。

・7/30 夏のセミナーでは、宮崎浩先生のご案内で「長野県立美術館」の見学と、戸隠神社や宿坊のまちあるきを行った。行政と共に当会員もまちづくりに参加されており詳しい話も聞いた。

・8/10には、「建築家の日常を語る」として、建築家としての基本的なコンプライアンス、社会に対する建築家の姿勢や役割等を参加者全員にて本音で語り合った。

・8 月後半に行う予定で企画していた常念岳の登山は残念ながら見送りとした。

・賛助会員との技術交流会は会議や見学会と組み合わせで随時行い、交流を深めた。

・9/12 茅野市の河川氾濫により会員が関わった建築が被災し、床下に進入した水の排除に当会もボランティア参加し地元建築士会の皆さんと一日汗を流した。床下浸水のメカニズムも勉強できた貴重な機会となった。その後、見事に復興された。(茅野市高部公民館)

・9/14 長野県林業大学校学生寮構造見学会 長野県のプロポーザルにて会員が設計監理を進めている定尺材をそのまま使用した中大規模木造施設の構造を見学する機会を設け多くの会員が参加した。

・10/12 仕事を語る会 旧小諸宿 脇本陣 糸屋

町の歴史の生き証人でもある建築を行政が買い上げ、現代に使える内容にリノベーション。小諸の街の中にこの様な手法が増えてきて街全体が元気になっていく過程も知ることが出来た。

・10/29 上田情報ビジネス専門学校雑学講座に講師派遣

・11/9 技術交流会+建築家の日常を語る会

・11 月に予定していた、滋賀方面の建築ツアーは残念ながら延期とした。

・12/3 冬のセミナー

(第一部) まちなみウォッチング「茅野市 糸萱集落板倉の里」

(第二部) 高部公民館 建築見学会/技術交流会

恒例の宿泊宴会はあきらめ、昼豪華メシを挟んで一日建築三昧の内容となった。

・1/11 技術交流会

・1/25 地域材を考える② 山辺先生を迎えて第16集の構造的レビューを計画したが残念ながら延期した。

・2/26(建築祭)文化講演会 夏に長野県立美術館の見学案内を頂いた建築家・宮崎浩氏を招き、同美術館の設計から現場でのものづくりの考え方をお聞きした。

・2/27 (建築祭)学生卒業設計コンクール 出品作品のレベルアップに伴い厳しい審査となったが、各審査員の暖かい視点での講評も頂き、学生達にとっても良い勉強の機会となった事と思います。

・3/25 「信州の建築家とつくる家 第17集」発刊 約束通り年度内発刊を達成出来ました。

・3/28 林業大学校学生寮完成見学会 構造見学会に続き完成見学会も行い、中大規模木造施設の方向性を参加者で話し合った。

当初計画した幾つかの主要事業は延期にせざるを得ない状況も生じたが、Zoomによる丁寧な委員会での話し合いが基本的なJIA長野県クラブの活動推進エンジンとして十分機能した。これは会員全員でのコロナ禍の社会を乗り切ろうとする熱意があつてこそで、過去とは内容を工夫しながら再構築してよりコンパクトで内容のある事業として進める事が出来た。JIA 長野県クラブはこれらの手造り事業を委員会単位で進める事で有意義で楽しくかつ厳しく、長野県の建築家としての人格形成の場ともなっている。

特に、本年度出来なかった「信州の建築家とつくる家」を題材に山辺先生を交えた構造レビュー、滋賀方面への建築ツアー、常念岳登山、宴席を伴う交流会や各種の勉強会や本音で語る会等、コロナが収まってきたら是非進めたい事業として、次年度に申し送りたいと思います。

9. 新潟地域会 (代表：伊藤純一)

新潟地域会の対外的な公益活動は3つの柱からなっています。一つは実行委員の選択提案で呼び寄せる建築家のセミナー、そして学生とJIAメンバーの交流を主たる目的とし、建築を学びはじめ間もない学生生徒

達の住宅課題を講評審査する県内学生課題設計コンクール、そして金賞作品が全国卒業設計コンクールにエントリーする権利を得ることができる、県内大学卒業設計コンクールです。

建築セミナーは前年度企画しコロナ禍の中開催を断念することになった仙田満先生のセミナーを計画していましたが、できれば対面開催が望ましいとの先生の意見を尊重し開催できる環境を模索していましたが、多数が集まる状況での開催時期が今年度内でタイミングが合わず、今年度は実施できず来年度5月に開催する予定となりました。5月開催が実現できることを望んでいます。

県内学生課題設計コンクールは2月19日に昨年同様zoomによるリモート開催いたしました。コロナ禍の中で課題提出が思う様に行かなかったのか、今年度も参加校は大学4校専門学校1校工業高校1校となり総作品数は21作品となりました。リモートによる講評審査会も2回目となり要領を得、スムーズな運営だったかと思えます。審査結果を踏まえ各校から2作品3月に実施する支部事業の北関東課題設計コンクールに出品することとなりました。通例なら審査会後に地域会メンバーと参加学生とで簡単な交流会を行うのですが、その交流会がコンクールの目的の一つでありながら実施できなかったのはやはり残念でした。

県内大学卒業設計コンクールは3月19日・20日と実施しました。今年度も審査会は出品学生と審査員のみ会場に集い、他の学生大学関係者とJIA会員はzoomによるリモート参加となりました。三大学9作品の中から、特別審査員の建築家福島加津也氏をはじめ計5名の審査員により、金銀銅各賞と福島先生選抜の審査員特別賞を選ぶ事となります。1次審査と2次審査の間に福島先生からスペシャルレクチャーを受けzoomでも配信しました。結果は同一大学が三賞を独占する形となりましたが、三賞外も含めそれぞれの作品の完成度が高く審査は困難で、結果以上の僅差だったと感じています。又学生諸君はこのコロナ禍の中で学業と学生生活を受けた皆々で、その様な環境下のもとこれだけの作品を作り上げたということも改めて評価すべきと感じます。金賞を獲った学生の作品が全国大会でどんな評価を受けるかが楽しみです。

対外的な三つの公益活動の他、毎月の月例会時に行うレクチャーも今年度は新しい試みがありました。年度初めから表面化したウッドショックをキーワードに、各会県内外の林業関係者や木にこだわる設計をする建築家を招き「近くの山をもっと近くに」というシリーズテーマで何度となくレクチャーを行いました。参加をJIA会員だけでなく広く募ったところ多くの外部参加があり、JIA月例会レクチャーも公益活動の一つとして引き続き対外的に向け実施していこうと感じたところです。

来年度も同様な活動を行う予定ですが、できれば対面式での活動に復活できることを望んでいます。

10. 中野地域会 (代表：白江龍三)

1. 長引くコロナウイルス蔓延のもとでの地域会の会合や活動

今年度も昨年来の「COVID-19 に対する活動ガイドライン」に則って、毎月の定例会の多くを役員会に切り替え、感染対策に配慮して対面式での会合（決裁事項中心）としたが、8月27日のメールで配布されたガイドラインの改訂版の咀嚼が9月会合の回避に間に合わなかった。とは言え実害は無く、その後はこの改訂版に基づき、状況に対応した決裁会合を実施している。なお、蔓延防止等措置期間中に感染急拡大が見られた際には、オンラインに変更した。昨年同様、区民とのバスツアーやまち歩き等のイベントは開催を避けた。

2. 活動報告

(定例会や支部関連は省略、★はCPD認定、「TAAF」は建築士事務所協会中野支部)

2021年

4月7日 地域会 通常総会

26日 中野区所轄と旧豊多摩監獄正門の件で会合、JIA側は地域会会員＋保存問題委員会の窪寺委員長。曳屋を選択した場合の理由の明確化および客観性の確保、今後の検討過程の透明化、検討へのJIAをはじめ専門家の参加をJIAから要望。

6月30日 区がJIAとTAAFあて、中野駅新北口駅前エリア拠点施設整備についての説明・意見交換会(区と事業施行予定者による報告。この内容に対し下記8月に要望書。)

7月26日「中野区基本計画に関する要望書」を中野区長と所轄へ提出、控を議会各党派・無所属へ配布

8月21日 杉並地域会主催「杉並土曜学校」で中野駅新北口駅前エリア再整備計画に関する中野地域会の活動をまとめて報告

24日 TAAFと連名で「中野駅新北口駅前エリア拠点施設整備の今後の進め方に関する要望書」を区長へ提出、控を所轄と議会各党派・無所属へ配布

24日「中野区基本計画(案)」のパブリック・コメントにつき、意見を所定書式で提出

24日 立憲民主党・無所属議員団との政策懇談会(JIA個別)

11月12日「旧豊多摩監獄表門の曳家移築とその後の活用に関する要望書」を中野区長と所轄へ提出、控を議会各党派・無所属へ配布

25日「中野駅新北口駅前エリア拠点施設整備に関するアンケート」を全議員に配布、TAAF共催

2022年

1月17日 アンケートへの「ご回答への御礼と内容分析」を各党派・無所属へTAAFと配布、「アンケートに関連し、日本建築家協会(JIA)中野地域会の視点のご紹介」別封配布、区長室・駅周辺まち課にも控を手交

25日「カーボンニュートラル等の勉強会」をTAAFと共催(講師：白江)★

2月22日「平和の森小学校敷地内における旧豊多摩監

獄表門の位置表示に関する要望書」を中野区長と所轄2ヶ所へ提出

22日支部の「オンライン専用機材の運用 勉強会」に地域会から参加

28日「哲学堂公園に秘められた世界～哲学的観察と建築学的展望～」をTAAFと共催(講師：ライナ・シュルツァ 東洋大学准教授)★

3月2日 区がJIAとTAAFあて、中野駅新北口駅前エリア拠点施設整備における追加検討内容の説明・意見交換会(区と事業予定者の報告)

4日 新宿区立 富久小学校で空間ワークショップ開催★

28日 都市計画マスタープラン素案・景観方針素案の説明・意見交換会、講師：中野区 都市計画課長 安田氏、TAAFと共催

以上報告します。

11. 三多摩地域会 (代表：高田典夫)

三多摩地域会は、東京都の23区と島嶼部を除く西側の広大なエリア(26市、3町、1村)をカバーするというのもあって、一つの組織として一体に活動することは困難な状況です。これまで、定例会を開催する場所を決めようとするだけでもなかなか大変でした。たまたま筆者を含めてこれまで歴代の地域会代表がJR中央線沿線にその活動域が被っていたこともあって、吉祥寺エリアや千駄ヶ谷駅からのアクセスが便利なJIA館などをその会場としてきましたが、小田急線沿線や京王線沿線をその活動エリアとする会員たちにとっては、集まるのにちょっと抵抗があったのは間違いありません。そんな状況を踏まえて、今年度は、コロナ禍という社会状況の変化によって、zoomを利用したりリモート会議が一般化したこともあって、月例会をzoomを利用したりリモート会議での実施を試行してみることにしました。まだまだ、うまく活用できているというわけにはいっていませんが、今まで参加していただけなかったメンバーにも参加いただけるようになって、地域会活動が少し大きくなっていく可能性が見えてきました。

また、これまでの活動の中心であった「こども空間ワークショップ」への参加は、地域会の枠をこえて新たに組織された活動のプラットフォーム「空間ワークショップフォーラム」の役割分担をわかりやすくして、その取りまとめのもとに会員個人の判断にまかせるということを地域会としての合意として、こども空間ワークショップの継承・発展に対して寄与するというにしました。

地域会の活動として予算に計上されていた「街歩き」と「三多摩地域会展」については、昨今のコロナ禍の影響で、未だ実現できていませんが、近い将来の実施を目指して、来年度へ繰越することとしました。今後とも、定例会での意見交換をベースにして地域会活動の活発化を目指していきたいと考えています。

12. 杉並地域会（代表：石井祐樹）

1) JIA 杉並土曜学校

2020年10月臨時国会における「2050年カーボンニュートラル宣言」を受け、当年度土曜学校のテーマを「カーボンニュートラル時代の杉並のまちを描く」とし、2回の講演会を行った。

・第1回「区民・行政・専門家と連携するまちづくり」
—阿佐ヶ谷駅北東地区と中野駅新北口駅前を事例として—

8月21日（土）オンライン開催 参加者56名
パネリスト：本田雄治（杉並区都市整備部まちづくり担当部長）

「阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりについて」
パネリスト：白江龍三（建築家・JIA 中野地域会）

「中野駅新北口駅前エリア再整備計画について」
パネリスト：寺尾信子（建築家・JIA 杉並地域会）

「カーボンニュートラル時代／地勢や交通網で繋がる近隣区の計画から互いに学ぶ」

コーディネーター：河野進（建築家・JIA 杉並地域会）

・第2回「区民・行政・専門家と連携するまちづくり」
—杉並のまちづくりに安心をもたらす地産地消エネルギー—

11月27日（土）オンライン開催 参加者39名
パネリスト：古舘将成（東京都環境局地球環境エネルギー部環境都市づくり課長）

「ゼロエミッション東京戦略—23区への期待」
パネリスト：歌川学（研究者・産業技術総合研究所主任研究員）

「都および杉並・練馬・中野・世田谷、4区の省エネ再エネ技術普及対策の試算」

パネリスト：安竹哲雄（藤沢市民・太陽光発電事業企画開発者）

「杉一小の電力自給150%計画から生まれる阿佐ヶ谷駅北東地区の地産地消電力融通システム」

コーディネーター：利光収（建築家・JIA 杉並地域会）

・JIA 杉並土曜学校の配信

今年度2回の土曜学校をJIA本部支部のYouTubeチャンネルで配信。これまで、土曜学校の記録本を発行する事で、活動の報告を図ってきたが、新たな試みとして挑戦した。

2) 新・建築家の本棚

本を媒介に、様々な知の体験について語り合うブックイベントとして、世田谷地域会と共催。

3月26日（土）杉並区・角川庭園開催 参加者23名
スピーカー：相坂研介（JIA 関東甲信越支部幹事長）・戸室太一（建築家）／黒木実（JIA 世田谷地域会）・清水富美子（JIA 世田谷地域会）

コーディネーター：利光収（JIA 杉並地域会）

クロストーク座長：林美樹（JIA 杉並地域会）

3) 杉並建築会

建築士会、事務所協会と協働。地域貢献を目的とする。杉並区との協定に基づき、定期的な意見交換会を

開催。まちづくりや道路計画について意見交換。定例運営委員会。空家相談窓口への専門家派遣など。

4) 活動会議

毎月第二水曜日を定例とし、12回の活動。オンライン開催。コロナが落ち着いた後も、オンライン併用とする。

5) 2020年度通常総会

コロナ禍の為、書面決議とし結審した。

6) 杉並区長とJIA六鹿会長との懇談

カーボンニュートラルの話題を中心に、JIA諸活動や行政の取り組みについての意見交換。

13. 新宿地域会（代表：広谷純弘）

新宿地域会の活動は下記のとおりでした。

1. 「新宿建築100景」関連事業

景観・建築マップ「新宿建築100景」（2017初版・2021改訂版）を区立図書館、博物館に等へ再配布した。新宿区立歴史博物館で「新宿建築100景」を利用した展示会の開催準備を行った。コロナが落ちついたところで実施する予定である。

2. 他地域会、建築事務所協会、建築士協会との交流

・JIA新宿地域会・東京都建築士事務所協会新宿支部・東京建築士会新宿支部で新宿建築設計三会を組織し、行政への働きかけへの基盤作りのため、年1回を目安に輪番制でイベントを企画する。2021年度は建築士協会が担当で、地域防災についての講演会をオンラインで行った。

・工学院大学村上正浩教授より、新宿区内の避難所について、実態と利用マニュアル等のレクチャーを受け、ワーキンググループで検討を行った。これは今後も継続する。

3. 新宿区との連絡、連携

・新宿建築設計三会で、新宿区に提案書を提出した。
・新宿区の応急危険度判定員への連絡訓練実施に協力した。訓練は新宿区建築課からのメール連絡に判定員が応えるものであるが、各団体登録判定員名簿の作成と、訓練予備連絡に関して協力した。名簿管理、連絡情報の管理共有などに問題点が散見され、新宿区との調整が必要と思われる。今年の提案書に含みたいと考える。

4. 若い世代の建築家向け事業

若手会員の入会促進と活動参加促進を進め、地域会活動を次世代へ受け継いでもらうための下地作りをした。

14. 城東地域会（代表：小川成洋）

コロナ禍でもできる活動を模索しましたが、Onlineではできる活動範囲が限られていて、十分に活発な活動ができない1年でした。ただ、そのような状況下が幸いしたのか、4月に開催した“なりたて建築士の設計コンペ”では、予想以上の参加者があり、優れた提案が数多く提出され、活況を呈しました。不幸中の幸

いともいえるイベントになりました。

■ なりたて建築士のための設計コンペ

その年の一級建築士合格者を対象にした提案型コンペ「なりたて建築士のための設計コンペ」ですが、2019年度が開催できなかったため、2019年度と2020年度、合わせて2年度分のコンペを、2021年4月に開催しました。城東地域会のメインイベントに成ったコンペですが、19作品の応募があり、また、当日のzoomプレゼンテーションにも多くの応募者に参加いただき、コンペは盛況のうちに完了できました。応募いただいた作品はどれもレベルが高く、他の大規模なコンペにも、引けを取らない作品だったと思います。2021年度のコンペを、今年の5月に開催予定で、目下参加者を募集中です。

■ 墨田サテライトキャンパス 安森教授講演会

9月30日に、千葉大学墨田サテライトキャンパスにて、千葉大学 安森教授による講演会【風景と居場所を創造する 地域の素材とキャンパスを通して】が実施出来ました。当日現地にて10名程度、Web参加で15名程度参加いただき、それほど広く告知していませんでしたが、多くの方に参加いただき、盛況な講演会となりました。反省点としては、Web講演会の操作に不慣れだったため、進行がスムーズに行えなかった事が残念でした。

■ 城東小学校子供空間ワークショップ

未来を担う子供達が、ものづくり、共同作業、建築間の楽しさを体験することを目的としたワークショップです。

今年もコロナ禍で開催も危ぶまれましたが、7月に中央地会と連携し、中央区立城東小学校でワークショップを開催出来ました。子供たちの夢中な姿が、一時コロナ禍を忘れさせてくれました。

■ すみだアーバンデザインコンペ地域会賞選考会

城東地域会では、これからの活動として、地域内にある大学との連携を検討しています。その手始めとして、墨田区に新たに校舎を構える千葉大学との連携として、千葉大学・専門職大学(IU)・墨田区が行うコンペに後援として協力。独自に城東地域会賞を設け、積極的に参加しました。

■ 東京水景デザインサーバイ

東京の城東エリアの水辺空間の再整備に向けた提言のために、東京ならびに近郊の優れた水辺の景観調査をおこない、あわせてセミナーやシンポジウムを開催するイベントです。

昨年度以来、「水郷佐原まちづくり探訪」を予定していたが、今年もコロナ禍で延期となり、2022年度の事業として開催したいと希望しています。

15. 文京地域会 (代表：手嶋保)

文京地域会では建築士会文京支部が連携し[文京建築会]を立ち上げ、連携を図ることで建築・まちづくりに関連した職能の向上を目指すとともに、会員相互の

交流と親睦をはかり地域社会に貢献することを目指しています。また会以外の建築人の方々や区民、行政、専門家とも文京区という地域を舞台に共に活動し、交流を深め、様々な活動が行われ現在も展開されています。おもな活動内容について下記にご紹介いたします。

● 文京区見どころ・絵はがき大賞

文京区の自然や都市景観、祭りやイベントなど区の魅力を紹介する「絵はがき」を公募し表彰しており、地域の人々とのつながりある活動の場となっています。前年度新型コロナの影響で開催を見送りましたが、11回目の開催は状況を見ながら開催をすることができました。本年度も状況を見て開催の実現にむけて活動をして参ります。

● 小石川フォーラム

建築家を目指す若手や学生などの交流の場として小石川フォーラムを立ち上げました。新型コロナの影響で開催を見送りましたが、今後はオンラインなどで開催を検討して参ります。

● 姉妹地域会との交流

姉妹地域会である京都地域会と毎年、相互の地域を訪れ交流を行って参りました。本年度は新型コロナ禍もあり、実現できませんでしたが、来年度に向けて合同の見学会などの企画を立てております。

● 文京と区との協定

「建築の専門家が文京区の防災対策、復興まちづくり等を支援するための協定」を区と結び、建築士会文京支部、事務所協会文京支部とともに一体となって協定を結び、現在は区との情報交換会を行っています。

16. 渋谷地域会 (代表：南條洋雄)

今年度は2020年から続くコロナ禍の中での地域会例会運営を強いられ、まん延防止等重点措置期間発令の度にZOOMを利用したリモート例会が中心となった。渋谷地域会では「学ぶ会」と「語る会」を軸に例会を開いている。

「学ぶ会」では会友の専門家・メーカーによる事例紹介を行っている。4月に旭ビルウォール「ファサードエンジニアリングの今」、6月に「オーシマブロス」、「三菱エレベータ新製品」、8月に「UIAについて」と会友の専門家・メーカーによる事例紹介や会員による組織の紹介など知識を習得する会を開いた。

「語る会」では5月にボストン在住の高氏による「サドベリー・グロピウス邸紹介」や7月・9月・10月に設計の作品紹介や会員の事務所業務の紹介など、親睦を図る会を開いた。毎年1月に特別例会として「語る会 CHIT-CHATting」を開催しているが、本年度はコロナ禍のため2022年7月に延期とした。

秋に事務局長が交代し、若手会員を中心とした事務局チームの新体制となり、活発な運営を図ることとなった。中でも建築家の生誕から現在までを深掘りした自己紹介を、新企画「語る会【自分史】」として始めた。11月には会員の柳田英一氏・西田聡氏に(Episode-1=

学生まで)、2月には山本圭介氏(Episode-1・2 現在まで)「建築家の現在に至るまで」を、建築家を目指す若い人達や学生たちへ向けた“メッセージ”としてプレゼンいただいた。

このように当地域会では会員・会友間だけでなく地域の内外問わず親睦につとめ、「楽しく役に立つ地域会」を心掛けており、会員および会友数を順調に増やしている。

17. 世田谷地域会 (代表: 柿崎豊治)

□区内小学校での空間WS及び空間ワークショップフォーラムへの参加を行った。

新型コロナウイルス禍が終息しない状況の中、実施を見送る小学校も多かったが、区内では3校で実施された。参加児童には小学生生活の貴重な思い出をプレゼントできたと思う。

□行政との連携では昨年に引き続き世田谷区建築物安全安心協議会に参加しているが、今年度の協議会は書面での参加となった。

□世田谷区地域風景資産を巡るまち歩きを継続して開催する予定であったが、新型コロナウイルス流行のため今年度も見送りとなった。

□数年来、世田谷区内の他会との連携のプラットフォームとして協議を続けてきた「世田谷建築会」を立ち上げた。まずは東京建築士会世田谷支部との2会連携という形となったが、発足会をオンライン開催して活動をスタートした。建築・まちづくりに関して、区民と行政の双方に活動をひろげてゆくことを目指す。

□杉並地域会からの呼びかけでトークイベント「新・建築家の本棚」を共催した。他地域会との連携で活動の視野が広がるよう期待する。

新型コロナウイルス禍が終息しない中、支部のZOOM会議サイトを利用しての定例会開催を継続した。全般的に活動は停滞気味となったが、他会・他地域会との連携が実現したことは今年度の大きな収穫であったと思う。

18. 千代田地域会 (代表: 大橋智子)

2021年度は、正会員、準会員、協力会員合計22名で活動を行いました。一時納まるかに見えた新型コロナウイルス感染が再度拡大、人が集合する活動を縮小せざるを得ませんでした。本年度はオンラインにも慣れてきたため、会合はすべてオンラインとし、対外的には、メンバーズトーク、ゲストトーク、学生設計展をWEB開催しました。内部的にも、WEBを活用して、景観WG、メンバーズトーク、ゲストトークWGなどのミーティングをもちました。ゲストトークにお招きしたことをきっかけに、千代田区の景観担当者とも交流を持つことができ、次年度にも継続が見込まれます。以下に2021年度の主な活動内容を報告致します。

■ 主な活動内容-1【千代田区を舞台とした学生設計展】

「千代田区を舞台とした卒業設計展」としてスタートし、対象を大学の課題設計や大学院修士設計まで広げてきたこの事業も、第14回目となる今年は、コロナ禍による活動制限のため、昨年同様レンタルサーバーに作品展示のWEBサイトを開設して、大学院の修士作品2点、学部の卒業設計作品3点、学部の課題設計7点、合計12作品19名の参加を得、各方面にメールで案内を発信し、チラシを配布するとともに、JIA 関東支部のホームページから展示サイトへリンクさせました。サイトは10月中旬から公開しました。11月7日の日曜日に、出展者の作品説明と作品講評その他の議論を行うトークセッションをZoom会議形式で開催しました。また、「JIA 千代田地域会2021 学生最優秀作品賞」1点・「同優秀作品賞」11点を選び、表彰状(アクリルフレーム付き)と記念品を送付贈呈しました。

■ 主な活動内容-2【公開メンバーズトーク・ゲストスピーチ】

公開「メンバーズトーク」を4回、「ゲストトーク」を1回開催しました。

5/25 第39回「建築に新たな息吹を与えるリノベーションが面白い」桐原武志会員

6/22 第40回「千代田区の景観計画とガイドライン等について」

千代田区環境まちづくり部 景観・都市計画課 景観指導係和田係長・本庄氏・藤本氏

7/27 第41回「1971 新宿駅～2021 代々木八幡駅(小田急での50年の試み)」篠田義男会員

9/28 第42回「木の宇宙船「有明体操競技場」受け継がれる構造技術とスピリット」斎藤公明会員

11/23 第43回「建築学科からこれまで」佐藤尊司会員

■ 主な活動内容-3【富士見小学校社会科授業】

区立富士見小学校児童に対する社会科出前授業「凸凹まち歩き」は中止となりました。3年生の授業では、昨年に引き続き、一昨年の「凸凹まち歩き」に使用した地図等の資料が使用されました。

■ 主な活動内容-4【景観調査分析WG—まち歩き調査とまとめ】

コロナ禍でまち歩き調査ができないため、今までの成果を対外的に提示できる「まとめ」の資料を作成し、WEB上で公開することが提案されましたが、打ち合わせ・作業はできませんでした。

■ 主な活動内容-5【保存,再生】

「東京海上ビルディング」(現東京海上日動ビル)の建替え発表を受け、保存問題委員会(委員長:太田会員)が事業者へ情報提供を求め、意見交換をし、10月31日に見学会を行いました。見学会に千代田地域会会員も参加しました。

■ 主な活動内容-6【千代田地域会 ホームページ】
現在の地域会独自のホームページの更新は行わず、支部ホームページ上での情報公開を行い、メンバーズト

ークの告知、「千代田区を舞台とした学生設計展」およびメンバーズトークの告知をしました。

■ 主な活動内容-7【保存、再生】

「九段会館」保存再生事例として3月31日に見学会を保存問題委員会(委員長:太田会員)が行いました。見学会に千代田地域会会員も参加しました。

■ その他【区立日比谷図書館の展覧会に協力】

区立日比谷図書館が開いた展覧会「タイムトリップ江戸から東京へ」(2021年10月22日~12月19日)で、「まちの記憶を残す」の「神田淡路町すまいの記録」の展示に協力しました。千代田地域会の実績を広く伝える良い機会になりました。

19. 中央地域会(代表:小田恵介)

○ 教育活動 | こども空間ワークショップ

中央区立城東小学校 第12回 空間ワークショップ(城東、千代田地域会と共催)。

開催日時:2021年7月2日(金)。

城東小学校は震災を受けて、先生も生徒達も建物の耐震について関心が高い。ワークショップ前の図工の時間に、家の耐震構造について構造建築士が授業を行っている。2021年度も2020年12月に、竣工した仮移転先の阪本・城東小学校の校舎の中で、屋上の半屋外スペースで4班に分かれて実施した。今年は6年生約30名で共同で作品を構築した。毎年、各班とも作りながらイメージが膨らみ、短時間で素晴らしい空間構成が出現する。生徒たちは例年通り素晴らしい体験ができた。

校舎は震災復興小学校として1929年建設されたが、既に再開発が決定され、超高層ビルの中に2022年度には再開発ビルが完成し、超高層ビル内に設置される初めての小学校となる。今年12月2日には久々に元の場所の新校舎でワークショップを開催予定。

○ 地域交流活動

2012年11月より、JIA保存問題委員会との協働で、「三原橋センター」の解体に際して各種の意見交換会を重ねた。2015年に解体されたが、資料のアーカイブ化のため資料整理を地域の人と進めている。2019年度は、関連資料の具体的な保存方法を検討する。4月にコアメンバーの大絵晃世氏から収集資料の提供の申し出があり保存先を検討中。

○ 会員交流活動

2016年6月に中央地域会設立10周年を迎え、昨年度は13年目。月例会は会員の事務所視察を兼ねて実施し、2016年は7つ、2017年は8つ、2018年は3つの事務所訪問して、会員の日々の活動の一端に触れ交流を深めた。今年は残念ながら諸般の事情で開催できなかった。12月にはコロナ禍の合間を縫って2年ぶりにリアルで例会を開催した。オンライン会議を活用して交流をはかりたい。

○ 中央建築三会の立ち上げ

文京、新宿地域会他に倣い、中央建築三会の立ち上げ

について、2017夏以来、士会、事協会とも打合せを進めており、2019年3月に士会・中央支部設立総会が開催され、新年度から具体的な活動がスタートしたため、近く、中央建築三会を立ち上げる。同年4月に三会の代表他の役員が集まり、今後の連携の可能性について協議した。中央区からの期待も大きく、三会が緊密に連携しながら、これまで以上に地域に根ざした活動を行う。各会の思惑の違いから具体的な活動には至っていない。

20. 城南地域会(代表:木村利雄)

2021年度の活動計画の柱は、(1)第11回城南・ふれあいフォーラム(2)区民参加のまち歩き(2回)、(3)アーバントリップ研修会の3本でした。

しかしながら、新型コロナウイルス、そしてオミクロン株とコロナウイルスに振り回される1年で活動も計画した通りにはなかなか実行できませんでした。そのような環境の中、会員の皆様には積極的に参加していただき下記の活動をすることができました。

・毎月の例会開催を12回。毎回の参加者は10名前後、例会は全てリアルで開催です。

・4月には会員のみによる城南散歩を実施、テーマは「大田・品川の区境を歩く」

洗足駅から大森駅までの約4.5km

・6月、第93回アーバントリップ「大井町駅前パブリックスペースへフォーカス」

(施設見学+シンポジウム)に協賛しました。

・10月に予定していた第11回城南・ふれあいフォーラムはコロナ禍により翌3月に延期

・11月には一般参加を含む13名による城南散歩「大田・品川の区境を歩く」を実施、長原駅から大森駅までの区境、約4.0kmでした。

・11月に延期したフォーラムを2022年3月に開催予定としましたが、オミクロン株によるまんえん防止措置が行われたため、行政側の協力を得ることが難しいと判断し今年度の開催は断念し次年度に送ることにしました。

このような中、新企画として「建築と音楽の集い」を新年度4月に行う計画を立案しました。会員の皆様の協力もありとんとんと準備が進み、4月開催の目途が立ちました。開場は大田区の景観まちづくり賞を受賞した旧山口文象邸・クロスクラブです。一般の方々に建築と音楽の魅力を伝える良い機会になるのではないかと期待が膨らみます。継続事業としても検討をしています。

実務業務として昨年に引き続き、大田まちづくり公社から「大田区公共施設の建築物の点検(建築基準法第12条第4項(設備))業務」の委託を受けました。3月には業務報告を終え無事完了することができました。契約等に当たっては支部の御協力もいただき、ありがとうございました。大田区からの一定の評価も得られたと思います。

一方、品川区とは「品川区水と緑の基本計画・行動計画の改正検討委員会」に会員が委員として委員会に出席しました。年度内には報告書が完成する予定です。活動計画のうち・フォーラムの開催、・アーバントリップ研修会の実施はできませんでしたが、2022年度の活動に向けて頑張りたいと思います。会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

21. 城北地域会（代表：鈴木和貴）

今にして思えば、10月から12月の3ヶ月は新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いていた時期であった。それでも、地域会の活動としては、対面での会合やまち歩き、セミナーなどの集合形式での開催には踏み切れず、一年を通してZoomでのリモート開催となった。

定例会は、毎月原則第三木曜日を開催日とし、下記の主な活動に関しての議事のほか、地域でのまちづくり情報や会員の活動などの情報交換も合わせて行った。

■地域会誌「KNIT #7」の企画と編集■

昨年度から継続して協議してきた「KNIT #7」のテーマも決まり、執筆者を募った。12名の地域会会員から寄稿があり、何回かの仮組み版下を元に、意見交換を重ねた。今年度末を最終原稿提出日とし、印刷は4月中旬を予定している。

今回は日本図書管理センターよりISBN(国際標準図書番号)の取得を目論んでいる。完成した「KNIT #7」は、これまでのように、地域でのまちづくり活動団体や行政、図書館などの公共施設、空間ワークショップでお世話になった学校や団体などに配布しJIAや地域会の活動を紹介する。そこで、図書館では書籍管理にISBNをもとに行なっていることが多く、図書館への寄贈には不可欠と考えたからである。

■リモートまち歩きの実施■

これまで、城北地域(北区・練馬区・板橋区・豊島区)のまち歩きを年4回実施してきたが、前年度では実施することができず、その理由は今年度も変わるものではない。

それでも、各区の特色を紹介する「まち歩き」は、地域会会員の知見を広める上では貴重な機会であるゆえ、リモートでの開催にて再開した。「落合・目白界限(豊島区)」「成増・赤塚界限(板橋区)」「千川上水を上流よりたどる(練馬区)」「江戸時代 何故、飛鳥山が行楽地となったのか(北区)」について、各担当者から紹介した。

「千川上水を上流よりたどる(練馬区)」では、城北地域会としては初めての試みとして、一般の方にも聴講していただいた。この方達は地域でのまちづくり活動を行われている方々で、当日のテーマに関連する活動を行っていることから参加を呼びかけた。今後の広く一般の方々の参加も受けることを目的とした試行でもあり、実施に際しての課題とともに公開することの意義を感じたものとなった。

■空間ワークショップの開催■

板橋区立加賀小学校では2017年度に開催して以来、毎年開催し、今年度も6年生 2クラス・6班・60人を対象に実施した。また、それに先立ち、事前授業として「建築を訪ねて」と題したテーマで建築を実際に見る楽しさを伝え、当日に臨んだ。

後日、子供達からは学校を通して感想文が届き、子供達の素直な表現から空間ワークショップや事前授業を経験して感じたことや感動が伝わってくる。学校はコロナ禍でも開催を要請し我々もそれに応じたことは、感染拡大に配慮したとはいえリスクもある中で、子供達にとっては貴重な経験になったと思う。そして、学校側のこの事業の開催意義を理解してくださったからこそこの要請であったと思う。

22. 港地域会（代表：宮田多津夫）

2022年度のJIA港地域会は、地味だがWEB中心に議論を展開し活動を支えた。地域会は「小さな組織」というメリットがある。小さな組織は、顔が見える。活動がわかる。意見が交わせる。そこは、建築家のサロンであり「第三の場」でもある。大学の研究室やゼミのような存在ともいえる。

わが地域会は幸運にも、建築家、教育者、デザイナー、社会活動家、街づくりコーディネーター、WEB技術者などそれぞれが多面体の顔を持ち活動をしている。一つのテーマから多様な意見が飛び交い、面白い議論が生まれ、それが刺激を生んでいく。現代が抱える問題、コロナ禍の社会変化、SDGsに係る問題、若手の建築家活動などをテーマに、歴史文化、経済、政治などまで幅広い議論を展開させた。そうした地味であるが一歩ずつテーマを進めた中に、「建築家の職能」の問題があった。

地域会前代表の村上さんから面白い人がいるというので、MASセミナー(港地域会の主力活動)に徐々に人を呼ぼうということになり、若手建築家の「寶神尚史」氏に登壇を願った。12月11日15:00~17:00、ハイブリッド方式で開催したが、学生の人気により多く参加者が集まったのはさすがである。近作の話から展開し、若手建築家の安定的収入確保のために「自作自演の開発」があることを知った。自作自演の開発とは、土地勘がある場所を見つけ、銀行から資金提供を受け土地を買い自ら開発することである。建築家は設計・運用のカギを握って、その開発をコントロールし収益性のある賃料収入を得る。その結果、建築家は不安定な設計料収入を補うことができるという発想だ。最近の若手は凄いいことを考える。還暦過ぎの建築家達には自作自演の開発は疑問であったが、考えてみれば、宮本忠長先輩は小布施を開発しまちづくりに貢献した。建築家は「自作自演で小さな街を開発する」のも一つの手段であるという結論に展開した。デベ主体の無謀な再開発ではなく、人間性と文化や記憶を繋ぐ開発である。それを建築家がリードする。これなら期待

が持てる。

さて、今年度の新会員は3名。若手の期待値も上がってきている。新人は入会時には、月例会で自己紹介を兼ね自作の建築論を聞き、それを肴にしてWEBであるが、地域会を盛り上げている。その他に、「東京海上ビル解体反対」の活動として、前川事務所OBの奥村さんと大宇根元JIA会長の寄稿呼びかけに大倉、宮田の2名が参加し、保存活動をサポートしている。コロナ禍で見学会などのリアル活動はできなかったが、地域会という「小さな組織の持つ緊密性」がJIAの存在価値のひとつであると新たに感じていた一年であった。

23. 目黒地域会（代表：伊藤正）

2021年度の地域会活動は長引くコロナ禍の影響もあり、特に対面でのイベント活動は制限せざるを得ない状況の中、下記の活動を行いました。

・月例会は予定通り8月を除き、毎月Zoomにて開催しました。

Zoomでの開催には慣れてきたものの、定例会への参加者の減少が見られたため、解消策として毎月、定例開催日を事前に会員の都合を聞いて調整する方法に切り替えたのですが、大きな改善にはなかなかつながっていません。そこで今年からは定例会の中で会員や関係者による作品、商品などのミニレクチャを取り入れるなど活発な定例会を目指しています。

・地域会総会もオンラインで開催し、委任状を含め会員の1/3以上の出席にて全議案可決し、役員を更新を行い、代表に伊藤正、事務局は平井充が新たに引き継ぐことになりました。

・対外的なイベントとしては、「街歩きの会」を11月に行ないました。JIA目黒地域会から2020年に区及び駒場地域連絡協議会に遊歩道企画書を提案した「駒場東大駅前公務員住宅跡地活用の事業コンペ」の事業予定地が既存建物解体完了し、更地になった事業計画地周辺を視察、現地にて地元の区議から開発事業の進捗状況などの説明を受けました。その後、日本民藝館の見学を行い、昼食を挟んで区内最北端に位置する「三角橋」において補助第26号線の拡幅状況を視察してきました。参加者は区議会議員2名と地元一般の方、地域会会員あわせて15名でした。

・行政関係との交流も毎年行われている区役所主催の「建築4団体懇親会」は中止となるなど制限を受けましたが、11月21日に目黒区のオンラインによる防災訓練への参加要請に基づき参加しました。また、目黒区景観アドバイザーとして地域会会員の平倉直子さんを再度推薦しました。

空間ワークショップフォーラム（代表：高田典夫）

2021年度は、引き続きコロナ禍による影響を受けて、さまざまな学校行事が実施の中止や見直しになる中、せめて屋外（校庭）で実施する活動だけでも実施したいという先生方や子どもたち・保護者たちからの多く

の声を受けた学校側の思いもあって、考えられる感染対策を施して、今年度前半に世田谷区、中央区の学校で実施をしましたが、多くの小学校では、スケジュールの見直しをしたり、やむなく中止とする学校も増えてきました。緊急事態宣言が解除された後、10月になってからは、好天にも恵まれて、例年同様の頻度で実施することができて、子供達はもちろん、先生方から感謝とお礼のお手紙をいただきました。今年度初めて実施することになったのは、2校は、日野市立1校、杉並区立1校と流石に少なく、毎年恒例となってきた夏休みイベントを待ち望んでいる子供たちの思いを考慮した東村山市立中央公民館で参加者数をこれまでの半数に限って、密状態にならないようにコントロールするなどの可能な限りの感染対策を施した上で、実施に踏み切った昨年度の例に倣って、今年度も同様に実施しようとトライしましたが今年度は市の同意を得ることができず、やむなく夏休みの時期での実施を諦めて中止ということにしましたが、子どもたちや公民館の担当者などの強い要望があり、年度内の実施を模索して、年度末の3月に実施となりました。その他合計で15ヶ所（そのうち、空間ワークショップフォーラムが実施コーディネートしたのは、杉並区立の3校、日野市立の1校、八王子市立の2校、武蔵野市立の1校、東大和市の公民館1ヶ所の8回）での実施という若干少なめの実施でした。

また、2016年より実施協力をしている実践女子大学日野キャンパスを舞台としたライトアップ・プロジェクト「光の庭」の会場構成（会場空間演出：実践女子大学建築デザイン研究室）に繋がり、引き続き、新たな空間提案のサポートをするとともに、この活動に関心を持つ若い世代を育て、地域とともに生きる建築家の存在を示している。

なお、予算化していた「こども空間ワークショップ展+シンポジウム」については、コロナ禍の影響を鑑み、今年度は企画を保留とすることにして次年度へ持ち越すことにした。

懸案の空間ワークショップのリーフレット（ガイドブック）は、2021年11月に完成して、これまで実施した小学校や教育施設、関心をお持ちの方々に配布するとともに、そのPDF版（電子書籍）は、支部ホームページにアップしました。今後ともこのリーフレットを活用して、地元で活動している建築家が直接子どもたちと接する機会をできるだけ持つように活動していきたいと考えています。

JIA北関東甲信越学生課題設計コンクール実行委員会（委員長：鈴木弘）

今回で16回を数える北関東甲信越に所在する大学・短大・高等専門学校・専門学校・工業系高校の設計授業での課題作品を対象としたコンクールです。今年度のコンクールは去る2022年3月27日に行いました。

審査は、審査委員長に赤松佳珠子氏、他審査員に慶野支部長と北関東甲信越6県の各地域会から各1名の計8名の体制で行いました。

例年、北関東甲信越地域の距離的にほぼ中央の前橋で、対面でのプレゼン・質疑応答による公開審査を行っていましたが、コロナ禍の影響で今年度も昨年度に続きWEB上でのコンクールとなりました。

また、コンクールに先立ち前日の3月26日15時よりウェビナーにより審査委員長の赤松佳珠子氏の特別記念講演「地域とアクティビティと建築と」を開催いたしました。

特別記念講演は、目の前に居ない聴取者に向かってネットを通して画像や図表を示しながらのやりづらいレクチャーであったと察しますが、流石に普段大学で教鞭をとられておられる赤松氏の判りやすく淀みのないレクチャーで、また受ける側もこのような環境に慣れてきているようで、講演会終盤の質疑応答も大変盛り上がりました。

コンクール当日の午前は、併催するJIA群馬クラブ学生措置業設計コンクールを同じくウェビナーにより行い、午後より第1部（工業高校の部）、第2部（大学・専門学校の部）の審査を行いました。

コンクールの様子は、事前に申し込みを頂いた方々にはウェビナーによるリアルタイムで配信を行いプレゼンや質疑応答、審査過程をなるべく多くの方に公開し、熱気を感じていただけたと思います。

賞は、各部門の金・銀・銅賞に加え審査委員長特別賞・支部長賞・各地域会賞を授与いたしました。また運営に例年協力していただいている前橋工科大学の建築系サークル「えん」による「えん特別賞」も選出いたしました。

コンクールは、午前10時から途中休憩を挟んで午後6時過ぎまでの長丁場で、審査員や学生の方々を始め関係諸氏には、大変お疲れさまでした。

当コンクールは、首都圏以外の他校との交流の機会の少ない学生の、卒業設計ではなく授業課題の作品を一同に集めて公開で審査することによって互いに刺激を受け、学ぶことが多いであろうと意図して開催しております。その意図から、次年度はコロナ禍も収まり会場でみんな集まっでの開催を望みたいと思います。参加校) 大学・専門学校の部：24作品（11校）、工業高校の部：14作品（8校）